

令和 7 年 度

事業報告書

(令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで)

学校法人光星学院

目 次

I. 法人の概要

1. 建学の精神・教育の理念	 1
2. 組織機構	 2
3. 設置する学校・学生数等の状況	 3
4. 法人の沿革	 4
5. 役員等の状況	 8
6. 教職員の状況	 9

II. 令和7年度を顧みて

1. 大学等教育部門	 11
2. 高等学校教育部門	 11
3. 幼児教育部門	 12
4. 国際教育部門	 12
5. 管理運営部門	 12

III. 事業の概要

1. 個性ある教育の推進	 12
2. 法人内教育機関の連携強化	 34
3. 国際交流の活性化	 34
4. 経営基盤の見直しと財政の健全化	 35
5. 業務改善への継続的な取り組み	 36
6. 情報教育環境整備の推進	 38

IV. 財務の概要

1. 資金収支計算書	 40
2. 事業活動収支計算書	 41
3. 貸借対照表	 42
4. 財務指標の推移	 42

I. 法人の概要

1. 建学の精神・教育の理念

学校法人光星学院の建学の精神は、
「神を敬し、人を愛する」

と創立者ヨゼフ中村由太郎によって示された。

その意図するところは、自分そして他人を尊ぶということである。人間の幸せは、物質的充足の中ではなく、不足の中で充足を求めて、意欲的に行動するその生き方の中にあるとの考えに基づいている。創立者がキリスト教徒であったということもあり、学生・生徒等に対して、「神がいて、その神はあらゆる人に宿り、われわれを見ている、故に神を宿した人を愛し、そして、自分自身も豊かな人として成長していこう」と呼びかけたものである。

つまり、「カトリック精神に則る道德教育を施し、高潔なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成すること」を建学の精神としているのである。

聖書の一節に「心の貧しき者は幸なるかな」とあります。

「Blessed are they who know their spiritual poverty, for theirs is the kingdom of heaven.」

学校法人光星学院の教育の理念は、この建学の精神に基づくとともに、創立者が打ち出した「立体的総合学園」構想の考え方を踏まえて、以下のように現すことができる。

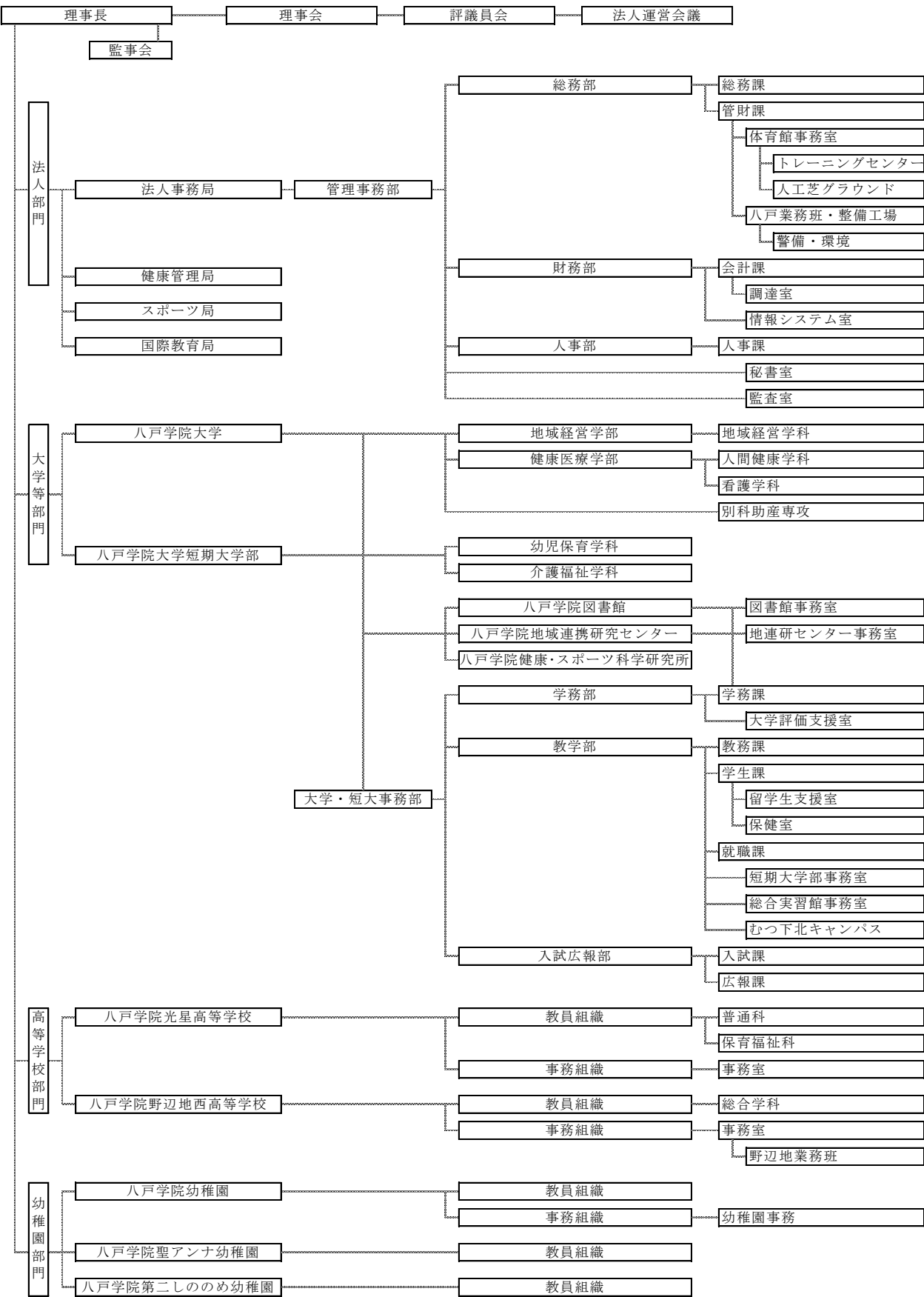
「教育基本法及び学校教育法に基づき、カトリック精神にのっとり、広く豊かな教養をもち、正しい道德観と高い知性を有する青年の育成に努め、21世紀の要求している人間の育成、特に地方の時代の到来にこたえ、地方文化や地域経済に密着した教育をする」

この精神・理念は、開学以来、今日に至るまで受け継がれており、全教職員共通の認識として浸透しているものとなっている。

2. 組織機構

学校法人光星学院の組織機構は次図のとおりである。

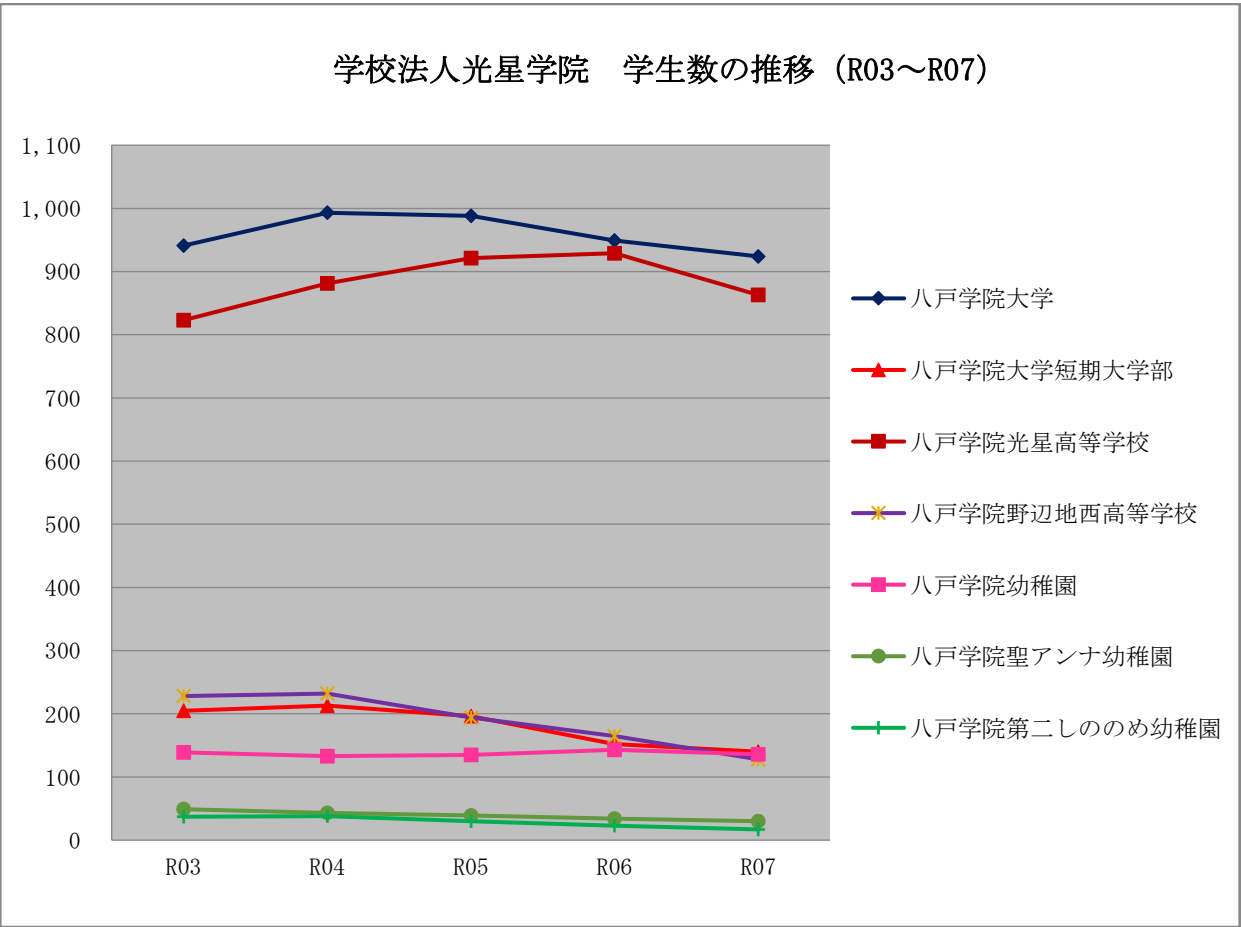
学校法人光星学院組織機構図



3. 設置する学校・学生数等の状況

令和 7 年 5 月 1 日現在

学 校 名 学部・学科名	入学 定員	収容 定員	学生数の状況					計
			1 年次 (1 歳児)	2 年次 (2 歳児)	3 年次 (3 歳児)	4 年次 (4 歳児)	－ (5 歳児)	
八戸学院大学	264	1,044	251	197	201	275	－	924
地域経営学部地域経営学科	80	320	73	69	73	92	－	307
健康医療学部人間健康学科	100	400	111	85	84	117	－	397
健康医療学部看護学科	80	320	63	43	44	66	－	216
別科助産専攻	4	4	4	－	－	－	－	4
八戸学院大学短期大学部	120	240	74	66	－	－	－	140
幼児保育学科	80	160	59	55	－	－	－	114
介護福祉学科	40	80	15	11	－	－	－	26
八戸学院光星高等学校	360	1,080	254	293	316	－	－	863
普通科	270	810	222	246	272	－	－	740
保育福祉科	90	270	32	47	44	－	－	123
八戸学院野辺地西高等学校	100	300	37	50	41	－	－	128
総合学科	100	300	37	50	41	－	－	128
八戸学院幼稚園	－	165	8	19	43	35	31	136
八戸学院聖アンナ幼稚園	－	90	－	0	11	6	13	30
八戸学院第二しののめ幼稚園	－	90	－	0	5	6	6	17
計	844	3,009	－	－	－	－	－	2,238



4. 法人の沿革

学校法人光星学院は、昭和 34（1959）年 3 月、光星学院高等学校設立を目的として中村由太郎によって創立された。

この光星学院高等学校の設立は、これを遡ること 3 年前の昭和 31（1956）年 4 月に、特に男子生徒の進学気運高まる中で、その就学の道を開くべき急を訴え、私財を投じ、市の支援も得て、その経営母体を学校法人白菊学園に委ねつつ産声をあげたものである。

光星学院は、学校法人としてその始まりから 60 年間の歩みを経て現在に至っている。

昭和 31 年、光星学院高等学校設立にあたり、創立者中村由太郎は、「進学の希望が満たされない多くの少年達を放置している事態は、地方教育界の未曾有の大事である。純真澁刺たる多くの若人達の栄えある前途にこそ偉材が潜みいることを思い、進学の道を平にして彼等に光明を与え、秘めたる天分を見出し、その天分を遺憾なく発揮させ真に人類社会の進歩発展に寄与せしめんとするものである。」

と、切々と熱情をこめて趣意を論じている。このことについて、光星学院高等学校（当時）初代校長アチール・クルノイエ氏は、創立 35 周年記念誌に聖書マタイ伝 3 章 31～32 節を引用し、往時を回想している。

聖書マタイ伝 3 章 31～32 節

「天の国は、からし種に似ている。人がこれを取って畑に蒔けば、どんな種より小さいのに、成長するとどの野菜より大きく空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる……」

この趣意の根底には、自らの苦学の体験、キリスト者としての愛の精神、奉仕の精神に根ざし、進学を志す若人には、広く教育の機会を与え、もって人格の陶冶を図り、広く地域社会の発展に寄与する有用な人材育成への限りない理想と情熱が常に内包されていた。その信念によって苦難を乗り越え、その第一歩を踏み出したものである。

光星学院設立以前には、運送事業経営のかたわら昭和 18（1943）年に「八戸和洋裁縫女塾」を開設。後に「八戸家政女学校」に改称し、昭和 23（1948）年には新学制に基づく高等学校として名称を「白菊高等学校」と改め、その経営に携わった。（この白菊高等学校は、昭和 25（1950）年カナダ国ケベック州ウルスラ修道院にその経営を移管する。）

光星学院設立後は、その充実整備に心血を注ぎながらさらに実務教育に関する要請に応えるために、昭和 36（1961）年に商業科を増設する。そして、昭和 39（1964）年には女子生徒受け入れに踏み切り、男子校から男女共学の教育環境体制へと移行する。また、就学前教育としての幼稚園設立機運の高まりとその要請を受けて、光星学院高等学校附属幼稚園を設立する（昭和 42（1967）年しのめ幼稚園、翌年の昭和 43（1968）年多賀台幼稚園をそれぞれ設立）。

戦後四半世紀を経て、時代の進展、高度経済成長、技術の革新、社会構造の変革、地域文化の進展、さらには地域社会の新たな開発等々を背景に高等学校卒業後の進路にも変化の兆しが見え、高等教育機関（大学、短大、専門学校、外国の大学）への進学率が着実に増加を辿るなか、光星学院高等学校も著しい進展を見せていた。そのような状況のなか、父母や地域各層からの要請もあつて「光星学院八戸短期大学」の設立に踏み切り、昭和 46（1971）年に設立認可を得ることとなった。

これを期に創立者中村由太郎は、新たな時代背景と地域の各層からの子女教育に対する期待に応えるために、昭和 46 年の短期大学発足直後に、学校法人光星学院の理想とする「立体的総合学園構想」を打ち出す。その構想の骨子は、以下に示すものである。

・教育の基本組織構成

幼稚園（保育園）—小学校—中学校—高等学校—短期大学—4 年制大学—大学院

- ・前記の正規の学校を土台に、社会人を対象とする成人教育を含む生涯学習の場の設置・提供を行う。
- ・この立体的総合学園構想は、一つの指導原理によって貫き、真に時代が要請する有用な人材育成を図る。
- ・この全体構想完成までには、前途遼遠を思わせるものがあるが、急がずあせらず、この夢（理想）の実現に向けて着実な歩みを期する。

この構想の特徴は、正規の学校以外に生涯学習（教育）を取り挙げたことである。当時わが国の教育行政・制度上で未だ定着していない中での今日の生涯学習（教育）社会到来の予見であったとも言える。この背景には、地域の活性化、地域文化の進展への期待と強い願望が込められていたのである。

以来、この理想実現に向けて、「幼稚園」（白銀幼稚園、聖アンナ幼稚園、びわの幼稚園、第二しのめ幼稚園）の増設、野辺地地区に「工業高等学校」及び「工学専門学校」の新設、光星学院高等学校で4学科（自動車科、機電科、建築科、保育科）の増設といった整備を経て、昭和56（1981）年、待望の「八戸大学」（商学部）を設立させるに至った。

しかし、平成4（1992）年をピークに、就学人口の減少がはじまりその影響避けがたく、本法人設置の各学校とともにその組織、内容、構成、規模（定員等を含む）の見直し是正が必須となった。平成13（2001）年に、このことを改めて確認し、「①八戸大学・八戸短期大学の学部、学科の改組」「②野辺地工学専門学校存続の是非」「③光星学院高等学校・光星学院野辺地西高等学校の課程の見直し」「④6幼稚園の統廃合」等の改善検討に着手する。これらの検討課題の議論により順次結論を得つつ、新体制へと移行した（本文2.「組織機構図」及び3.「設置する学校・学生数等の状況」を参照）。

学校法人光星学院は、この体制をもって理想に向かって着実に歩みを進め、常に「学生・生徒・園児の教育とは・・・を問いつつ」、「地域に根差した教育機関であること」に思いをはせ、教育研究活動の更なる充実に努めてきた。

加えて、将来に向けては、当初掲げた「立体的総合学園構想」を座右に置きつつ、「生涯学習システム構想」や「大学院設置」等の構想についても、地域の要望にも耳を傾けながら、弛まず研究・検討を重ねてきている。

平成13（2001）年に就任した第三代理事長 中村 覚は、経営基盤の見直しとしての財政改革に着手し、その着実な成果をみたことから、平成24（2012）年度末で理事長職を退任し、平成25（2013）年4月1日付で「学院主」に就任した。後任の第四代理事長には、同日付で副理事長であった法官新一が就任し、新たな体制となって前進していくこととなった。

平成25（2013）年4月1日付で、本法人が設置する全ての学校名を「八戸学院」として統一を図るとともに、新たなシンボルマークを制定して、新生「八戸学院」が始動した。校名統一を期に八戸市公会堂にて、附属幼稚園3園による「星の子音楽会」、高校2校、短大、大学の園児・生徒・学生のステージ発表による八戸学院フェスタ「絆」を開催した。

平成26（2014）年12月には、八戸学院「室内練習場」が竣工した。この施設は、八戸学院大学、八戸学院光星高等学校硬式野球部の冬季の練習場を確保するとともに、幼稚園の運動会等に使用可能な多目的室内競技施設として活用できる設備である。

平成27（2015）年3月31日、「八戸学院短期大学看護学科」は、看護職の技能向上・資格取得等の要請に応えるため4年制大学への移行を文部科学省に申請し、同年8月31日付で認可となった。平成28（2016）年4月1日より、学部名称の変更も行い、「八戸学院大学健康医療学部看護学科」として始動することになった。なお、「八戸学院短期大学看護学科」は募集を停止するとともに、在学する学生の卒業までその教育を続けた。このことにより、八戸学院大学は2学部3学科、八戸学院短期大学は3学科体制となった。

平成29年（2017）年4月1日より、八戸学院短期大学の名称変更を行い、「八戸学院大学短期大学部」として大学との連携強化を図った。短期大学の名称変更に伴い短期大学附属幼稚園3園の名称についても、八戸学院短期大学附属幼稚園は「八戸学院幼稚園」、八戸学院短期大学附属幼稚園聖アンナは「八戸学院聖アンナ幼稚園」、八戸学院短期大学附属幼稚園第二しのめは「八戸学院第二しのめ幼稚園」に変更した。

平成28年度、学校法人光星学院は、創立60周年を迎え、内外に向けて諸行事を行って、教育への情熱の発現とさらなる発展を期した。8月「野外フェスティバル」、9月「八戸学院大学弓道場『鳴弦館』落成式典」、10月「記念モニュメント『生命の川cosmos』除幕式」、11月「60周年記念ミュージカル『北の大地に』公演」および「60周年記念式典」など多彩な行事を催した。

また、これを機に法人は、「新立体的学園構想」を打ち出した。

平成29（2017）年度、八戸学院大学ビジネス学部の「地域経営学部」への改編を文部科学省に申請し認可を得た。このことによりビジネス学部は平成30（2018）年度の募集を停止した。また、八戸学院大学短期大学部ライフデザイン学科は、その使命を終えたとして平成30（2018）年度の募集を停止した。

平成30（2018）年度、八戸学院大学では「地域経営学部地域経営学科」を開設し、同学科1期生が入学した。八戸学院大学短期大学部では、ライフデザイン学科の最後の学生が卒業した。また、「介護福祉学科」の設置申請を行い、認可を得て、平成31（2019）年4月に開設した。介護人材の輩出への期待に応えるべく、地域の学生のみならず、外国人留学生へも門戸を広げた展開が始まった。これに伴い、八戸学院光星高等学校専攻科介護福祉科の閉科の準備を開始した。

外国人留学生の受け入れ学生・生徒等の海外研修・留学の推進など国際化に対応するため、国際教育部門を設置し、「国際教育局」および「国際教育センター」を開設した。6月、フィリピンにお

いて「八戸学院カーテル高校」の開校式を実施し、カーテル科学財団との連携を強化した。

八戸学院幼稚園は、平成 29 年（2017）年 12 月 20 日、八戸市に幼保連携型認定こども園への設置認可申請を行い、平成 30 年（2018）年 3 月 28 日付けで認可を得て、同年 4 月 1 日より幼保連携型認定こども園・八戸学院幼稚園として新たなスタートを切った。また、令和 2 年 4 月から聖アンナ幼稚園・第二しのめ幼稚園が子ども・子育て支援新制度へ移行することとなった。

令和 2（2020）年 3 月 31 日に平成 4（1992）年 4 月に開設した八戸学院光星高等学校専攻科介護福祉科を廃科し、令和 3（2021）年 3 月 31 日には、八戸学院光星高等学校専攻科自動車科を廃科し、「専攻科」の 46 年間の歴史に幕を閉じるとともに、八戸学院光星高等学校のビジネス科・工業技術科を廃止した。また、八戸学院大学ビジネス学部ビジネス学科では、最後の学生が卒業して廃止となった。

令和 3（2021）年度、八戸学院大学健康医療学部人間健康学科では、平成 31（2019）年度より 100 名を超える入学者の現状を踏まえ、入学定員を 80 名から 100 名にするために文部科学省に「収容定員の増加に係る学則変更」の認可申請を行い、8 月 29 日に認可された。

同年 9 月には、同大学に昨今の全国的な産科医不足の傾向から、助産師への期待が高まりを見せている現状や、地域からの要請を踏まえ、「別科助産専攻」課程（入学定員 4 名）の設置に係る準備を開始し、令和 4（2022）年度、文部科学省に「別科助産専攻」の設置を申請し、8 月 31 日に「看護師学校等の指定」の通知を受けた。これにより、令和 5 年度から入学定員 4 名の助産師養成課程を開始した。

令和 6（2024）年 3 月にむつ下北地域の看護師不足の解消を目指して、看護学科「むつ下北キャンパス」の開設をはじめ、医療・健康分野で協力する包括連携協定を八戸学院大学とむつ市との間で締結した。また、令和 6（2024）年度には、八戸学院野辺地西高等学校の老朽化等に伴う旧青森県立五戸高等学校校舎への移転リニューアルの協議が五戸町と進み、令和 7（2025）年 3 月に学校法人光星学院と五戸町との間で校舎等を無償貸借する契約を締結した。

令和 6 年（2024）年度に八戸学院光星高等学校通信制課程設置の検討が始まり、同年度には八戸学院大学と八戸学院大学短期大学部の改組・再編構想の一環として、令和 7 年度から開始する大学の新カリキュラムと短期大学部幼児保育学科 3 年コース設置の準備も行われた。

令和 7 年度（2025）は、学びの再構築と 18 歳人口の減少を踏まえて八戸学院大学と八戸学院大学短期大学部で学部・学科の名称変更と入学定員変更の届出を行い、看護学科を独立させて看護学部を設置する届出もなされた。令和 7 年 4 月からは看護学科「むつ下北キャンパス」がスタートし、不足する小学校教員の養成に向けて小学校教諭二種免許状取得のための課程の申請が認可された。また、八戸学院健康・スポーツ科学研究所が開設された。

令和 8 年（2026）2 月には八戸学院光星高等学校通信制課程普通科の設置が認可されるとともに、八戸学院聖アンナ幼稚園と八戸学院第二しのめ幼稚園においては収容定員に係る園則の変更が認可された。

八戸学院野辺地西高等学校の移転リニューアルに際し、新校名が「八戸学院ひばり野西高等学校」に決定し、校舎の整備、寮や人工芝サッカー場の建設に向けた準備が進められた。サッカー部員数の増加に伴い、令和 8 年 4 月から宿泊できるように生徒会館の部屋や食堂などの改修を行った。

（沿革の詳細：次表を参照）

表：法人の沿革

昭和31年 4月18日	学校法人白菊学園による光星学院高等学校設置
昭和34年 3月23日	学校法人光星学院設立認可
昭和34年 3月31日	学校法人白菊学園による光星学院高等学校廃校
昭和34年 4月 1日	学校法人光星学院による光星学院高等学校設置
昭和42年 6月 1日	光星学院高等学校附属しのめ幼稚園設置
昭和43年 7月 1日	多賀台幼稚園設置
昭和46年 4月 1日	八戸短期大学（幼児教育学科）設置
昭和48年 4月 1日	光星学院八戸短期大学に校名変更（旧校名：八戸短期大学）
昭和48年 4月 1日	光星学院野辺地工業高等学校設置
昭和48年 4月 1日	光星学院八戸短期大学附属白銀幼稚園設置
昭和49年 4月 1日	光星学院高等学校専攻科自動車科設置
昭和51年 4月 1日	光星学院八戸短期大学附属聖アンナ幼稚園設置
昭和53年 4月 1日	光星学院八戸短期大学附属びわの幼稚園設置
昭和54年 4月 1日	光星学院野辺地自動車工学専門学校設置

昭和54年 4月 1日	光星学院八戸短期大学附属第二しのめ幼稚園設置
昭和56年 4月 1日	八戸大学（商学部商学科）設置
昭和59年 4月 1日	光星学院野辺地工学専門学校情報会計学科開設・校名変更（旧校名：光星学院野辺地自動車工学専門学校）
昭和62年 4月 1日	光星学院八戸短期大学経営情報学科開設
平成 4年 4月 1日	光星学院高等学校専攻科介護福祉科開設
平成 9年 4月 1日	光星学院野辺地西高等学校に校名変更（旧校名：光星学院野辺地工業高等学校）
平成11年 4月 1日	光星学院野辺地工学専門学校情報会計学科募集停止
平成16年 4月 1日	八戸大学学部学科名称変更（商学部商学科→ビジネス学部ビジネス学科）
平成16年 4月 1日	光星学院八戸短期大学学科名称変更、入学定員変更 (幼児教育学科 80 名→幼児保育学科 100 名、経営情報学科 100 名→現代ビジネス学科 80 名)
平成17年 3月31日	光星学院野辺地工学専門学校情報会計学科廃止
平成17年 4月 1日	八戸大学人間健康学部人間健康学科設置、入学定員変更（ビジネス学部ビジネス学科 200 名→100 名）
平成17年 4月 1日	八戸短期大学に校名変更（旧校名：光星学院八戸短期大学）
平成17年 4月 1日	光星学院高等学校入学定員変更（ビジネス科 80 名→40 名、工業技術科 240 名→120 名）
平成17年 4月 1日	光星学院野辺地西高等学校入学定員変更（普通科 80 名→0 名、総合学科 280 名→200 名）
平成17年 4月 1日	幼稚園の園名変更 ・八戸短期大学附属しのめ幼稚園（旧園名：光星学院高等学校付属しのめ幼稚園） ・八戸短期大学附属多賀台幼稚園（旧園名：光星学院八戸短期大学附属多賀台幼稚園） ・八戸短期大学附属白銀幼稚園（旧園名：光星学院八戸短期大学附属白銀幼稚園） ・八戸短期大学附属聖アンナ幼稚園（旧園名：光星学院八戸短期大学附属聖アンナ幼稚園） ・八戸短期大学附属びわの幼稚園（旧園名：光星学院八戸短期大学附属びわの幼稚園） ・八戸短期大学附属第二しのめ幼稚園（旧校名：光星学院八戸短期大学附属第二しのめ幼稚園）
平成18年 4月 1日	八戸短期大学現代ビジネス学科学生募集停止
平成18年 4月 1日	八戸短期大学ライフデザイン学科設置
平成19年 3月31日	八戸短期大学現代ビジネス学科廃止
平成19年 3月31日	八戸短期大学附属白銀幼稚園廃止
平成19年 4月 1日	八戸短期大学附属幼稚園設置（八戸短期大学附属しのめ幼稚園園名変更、収容定員変更 125 名→160 名）
平成19年10月 2日	八戸短期大学附属多賀台幼稚園廃止
平成20年10月31日	八戸短期大学看護学科設置認可
平成21年 3月31日	光星学院野辺地工学専門学校廃止認可
平成21年 4月 1日	八戸短期大学看護学科設置、ライフデザイン学科入学定員変更（80 名→40 名） 八戸大学入学定員変更（ビジネス学部 100 名→80 名、人間健康学部 100 名→80 名）
平成22年 3月18日	八戸短期大学が第三者評価の適格認定を受ける（短期大学基準協会）
平成23年 3月25日	八戸大学が大学機関別認証評価の認定を受ける（日本高等教育評価機構）
平成24年 4月 1日	光星学院高等学校入学定員変更（ビジネス科 40 名→30 名、工業技術科 120 名→80 名）
平成24年 4月 1日	光星学院野辺地西高等学校入学定員変更（総合学科 200 名→150 名）
平成24年 4月 1日	八戸短期大学附属幼稚園収容定員変更（160 名→200 名）
平成25年 4月 1日	法人内全施設の校名を「八戸学院」に統一
平成25年 8月26日	八戸学院短期大学附属びわの幼稚園廃止
平成27年 8月31日	八戸学院大学人間健康学部看護学科設置認可
平成28年 4月 1日	八戸学院短期大学看護学科学生募集停止
平成28年 4月 1日	八戸学院大学学部名称変更（人間健康学部→健康医療学部）
平成28年 4月 1日	八戸学院大学健康医療学部看護学科設置
平成29年 3月13日	八戸学院短期大学が第三者評価の適格認定を受ける（短期大学基準協会）
平成29年 4月 1日	八戸学院大学短期大学部に校名変更（旧名称：八戸学院短期大学）
平成29年 4月 1日	幼稚園の園名変更 ・八戸学院幼稚園（旧名称：八戸学院短期大学附属幼稚園） ・八戸学院聖アンナ幼稚園（旧名称：八戸学院短期大学附属幼稚園聖アンナ） ・八戸学院第二しのめ幼稚園（旧名称：八戸学院短期大学附属幼稚園第二しのめ）
平成29年 4月26日	八戸学院大学地域経営学部地域経営学科設置届出
平成30年 3月 6日	八戸学院大学が大学評価基準「適合」の認定を受ける（日本高等教育評価機構）
平成30年 3月28日	八戸学院幼稚園（幼保連携型認定こども園）設置認可
平成30年 3月31日	八戸学院大学短期大学部看護学科廃止
平成30年 3月31日	八戸学院幼稚園廃止
平成30年 4月 1日	八戸学院大学短期大学部ライフデザイン学科学生募集停止
平成30年 4月 1日	八戸学院幼稚園（幼保連携型認定こども園）設置（186 名）
平成30年 4月 1日	八戸学院大学ビジネス学部ビジネス学科学生募集停止
平成30年 4月 1日	八戸学院大学地域経営学部地域経営学科設置

平成30年 4月 1日	国際教育部門（国際教育局・国際教育センター）設置
平成30年 6月13日	八戸学院カーテル高校開校
平成30年 8月31日	八戸学院大学短期大学部介護福祉学科設置認可
平成31年 3月31日	八戸学院大学短期大学部ライフデザイン学科廃止
平成31年 4月 1日	八戸学院光星高等学校入学定員変更（普通科 160 名→270 名、ビジネス科 30 名→0 名、工業技術科 80 名→0 名）
平成31年 4月 1日	八戸学院大学短期大学部介護福祉学科設置
令和 2年 4月 1日	八戸学院光星高等学校専攻科自動車科生徒募集停止
令和 2年 4月 1日	八戸学院光星高等学校入学定員変更（保育福祉科 120 名→90 名）
令和 2年 4月 1日	八戸学院野辺地西高等学校入学定員変更（総合学科 150 名→100 名）
令和 3年 3月31日	八戸学院大学ビジネス学部ビジネス学科廃止
令和 3年 3月31日	八戸学院光星高等学校ビジネス科、工業技術科廃止
令和 3年 3月31日	八戸学院光星高等学校専攻科自動車科廃止
令和 3年 3月31日	八戸学院光星高等学校専攻科廃止
令和 3年 4月 1日	八戸学院大学短期大学部幼児保育学科入学定員変更（100 名→80 名）
令和 4年 4月 1日	八戸学院大学健康医療学部人間健康学科入学定員変更（80 名→100 名）
令和 4年 4月 1日	八戸学院幼稚園収容定員変更（186 名→165 名）
令和 5年 4月 1日	八戸学院大学別科助産専攻設置（入学定員 4 名）
令和 6年 3月15日	八戸学院大学が「日本高等教育評価機構が定める評価基準に適合している」と認定された。
令和 6年 3月15日	八戸学院大学短期大学部が「日本高等教育評価機構が定める評価基準に適合している」と認定された。
令和 7年 4月 1日	八戸学院大学むつ下北キャンパス設置
令和 8年 2月 2日	八戸学院光星高等学校通信制課程普通科設置認可（240 名）

5. 役員等の状況

令和7年6月19日現在

役員等定数	氏 名	選任条項	備 考
理事長	法 官 新 一	第 14 条第 2 項	
理 事 定数 5～8 現員 8	小 林 眞	第 7 条第 1 項 1 号	業務執行理事
	山 西 幸 子	第 7 条第 1 項 1 号	
	橋 場 保 人	第 7 条第 1 項 1 号	
	法 官 新 一	第 7 条第 1 項 2 号	理事長
	泉 山 裕	第 7 条第 1 項 2 号	
	遠 藤 守 人	第 7 条第 1 項 2 号	代表業務執行理事／理事長補佐
	榊 佳 弘	第 7 条第 1 項 2 号	
監 事 定数 2 現員 2	熊 谷 清 一	第 7 条第 1 項 2 号	
	蓼 内 眞 人	第 22 条第 1 項	
評議員 定数 6～9 現員 9	淡 路 俊 彦	第 22 条第 1 項	
	杉 山 幸 子	第 31 条 1 項 1 号	
	中 村 良 寛	第 31 条 1 項 1 号	
	加 藤 康 子	第 31 条 1 項 1 号	
	松 田 一	第 31 条 1 項 2 号	
	金 濱 康 光	第 31 条 1 項 2 号	
	市 川 恵 子	第 31 条 1 項 2 号	
	法 官 憲 章	第 31 条 1 項 3 号	
	大 平 透	第 31 条 1 項 3 号	
	鶴 飼 忠 晴	第 31 条 1 項 3 号	

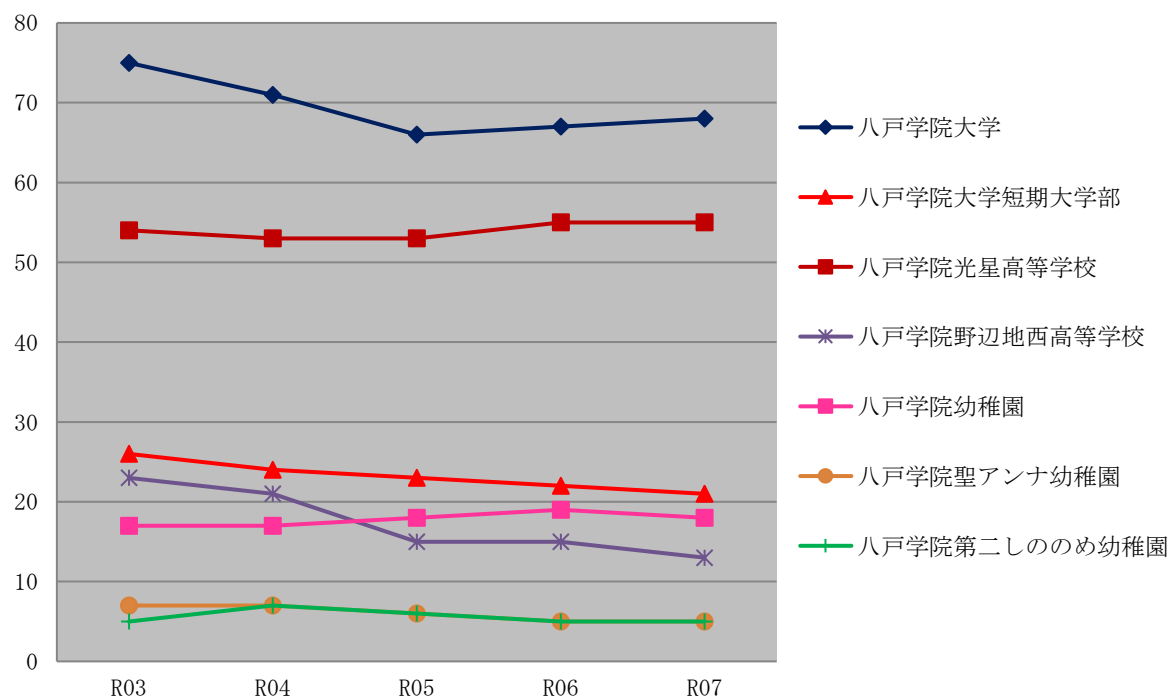
6. 教職員の状況

令和7年5月1日現在

学 校 名	学部・学科名	教授	准教授	講師	助教	助手	教諭	助教諭	養護教諭	常勤講師	非常勤講師	一般職員	計
八戸学院大学	地域経営学部	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	地域経営学科	13	7	1	1	-	-	-	-	-	17		
	健康医療学部												
	人間健康学科	9	5	5	1	-	-	-	-	-	35	45	202
	看護学科	6	6	4	6	1		-	-	-	29		
	別科助産専攻	1	-	1	1	-	-	-	-	-	8		
八戸学院大学 短期大学部	幼児保育学科	8	2	4	-	-	-	-	-	-	13	8	49
	介護福祉学科	2	2	3	-	-	-	-	-	-	7		
八戸学院 光星高等学校	普通科	-	-	-	-	-	47	-	1	7	23	6	84
	保育福祉科												
八戸学院 野辺地西高等学校	総合学科	-	-	-	-	-	11	-	1	1	7	4	24
八戸学院幼稚園		-	-	-	-	-	14	-	-	4	11	5	34
八戸学院 聖アンナ幼稚園		-	-	-	-	-	5	-	-	-	9	1	15
八戸学院 第二しののめ幼稚園		-	-	-	-	-	5	-	-	-	10	-	15
八戸学院 地域連携研究センター		2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4
業務班		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	20
合 計		41	22	18	9	1	82	0	2	12	169	91	447

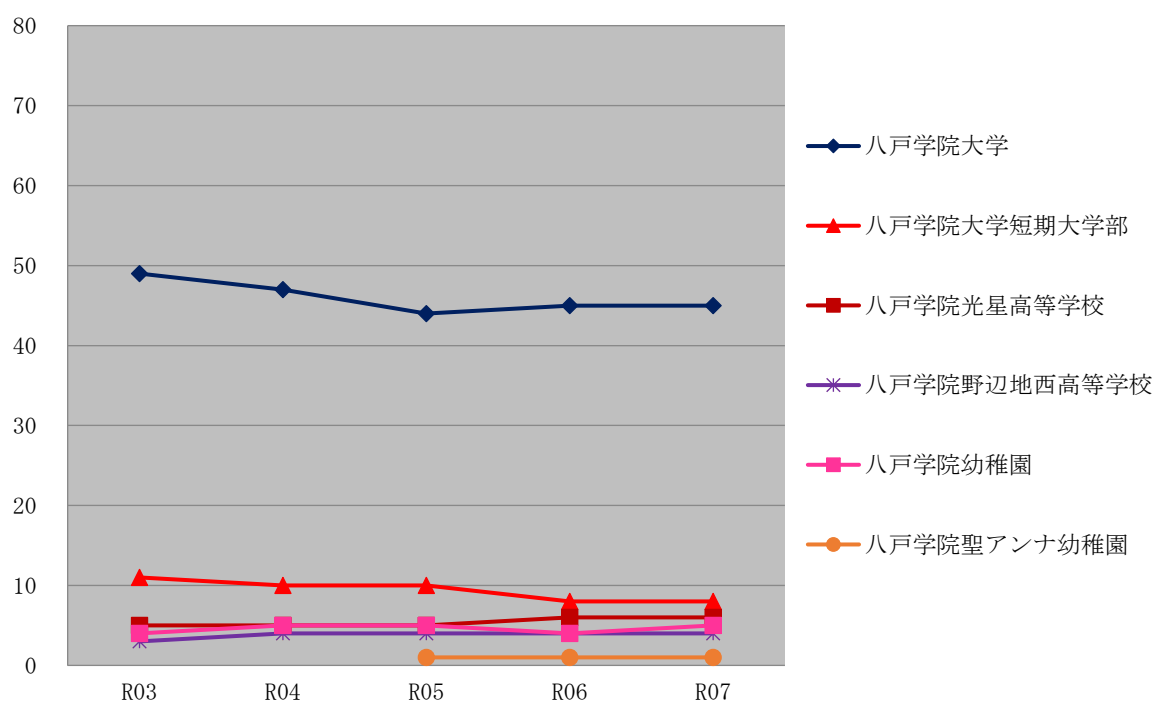
(非常勤講師には、内部非常勤講師を含む)

学校法人光星学院 教員数の推移（R03～R07）



（非常勤講師を除く）

学校法人光星学院 職員数の推移（R03～R07）



Ⅱ. 令和7年度を顧みて

令和7年度事業計画に基づき、法人および各学校の事業が計画的に進められた。経営基盤の安定に重要である学生数の状況は、入学者数において八戸学院大学と八戸学院大学短期大学部では昨年度より増加したものの、その他の学校では減少している。収容定員から見た充足率についてはすべての学校で未充足であり、法人全体の充足率としても昨年度より低下した。

(R6 80.1%→R7 74.4%)

主な動向としては、八戸学院光星高等学校通信制課程普通科の設置が認可され、八戸学院野辺地西高等学校の移転リニューアルに向けては、新校名が「八戸学院ひばり野西高等学校」に決定し、寮や人工芝サッカー場建設等の準備が進められた。

国際教育の観点から海外からの留学生招致に積極的に取り組み、八戸学院大学では12名、八戸学院大学短期大学部介護福祉学科では7名、八戸学院光星高等学校では4名の在籍となり、総人数としては昨年度より1名の増加となった。スポーツの振興や地域との連携強化としては、スポーツ局・地域連携研究センター・各学校において計画に基づいて展開された。

1. 大学等部門

(1) 学部等の改組改編

八戸学院大学では、新カリキュラムが開始され、看護学部の設置、学部・学科の名称変更の届出がなされた。また、看護学科「むつ下北キャンパス」と八戸学院健康・スポーツ科学研究所が開設され、不足する小学校教員の養成に向けては小学校教諭二種免許状取得のための課程の申請が認可された。

八戸学院大学短期大学部では、幼児保育学科3年コースが始まったほか、幼児保育学科における学科名称の変更と2学科で入学定員の変更の届出がなされた。

(2) 教育の質の向上

建学の精神の理解深化を目的に、「宗教学」で理事長講話を継続し、教会との連携による行事も実施した。八戸学院大学の各学科では「地域を学びのキャンパス」とする実践教育を推進し、商工会議所との連携講座や地域を対象としたゼミ活動を展開した。また、独自ループブックによる学修成果の把握による「教育の質」の高度化、UNIVASを活用した強化指定部学生支援の強化なども進めた。

八戸学院大学短期大学部では地域をフィールドとした活動を活発に展開するなど、学生の主体的学びと地域協働を深める教育体制の充実に取り組んだ。

(3) 高大連携

系列高等学校との連携を拡充させるとともに、重要なステークホルダーとして高大連携協定を締結している青森県立八戸西高等学校と青森県立三沢高等学校へは講師派遣するなど、連携活動を推進した。また、今年度は青森県立八戸東高等学校との連携協定を締結した。

2. 高等学校部門

(1) 魅力ある学校づくり

八戸学院光星高等学校は、各科ともコースの特色を生かした教育を積極的に推進し、学習支援クラウドサービス「Classi」やiPadを用いたICT教育を進めることで、ポートフォリオ記録の習慣を定着させた。課題の一つである退学防止策の強化に努めつつ、令和8年度に開設する通信制課程への転籍も視野に指導体制を整えた。

八戸学院野辺地西高等学校は、地域行事への参加を中心に地域との連携を深めるとともに、サッカー部が県高総体で初優勝するなど部活動の活躍も光った。学びの面では、総合学科各系列の特色のある教育・行事等を推進し、法人内上級学校への進学を積極的に促した。

(2) 高大連携教育の推進

八戸学院大学ならびに八戸学院大学短期大学部と締結した連携協定に基づき、スポーツ・国際を中心とした具体的プログラムを昨年度に引き続き実施した。

3. 幼稚園部門

(1) 教育内容の充実

各園とも重点目標に基づき園児一人ひとりの成長に適した丁寧な関わりに努め、自然散策や作物栽培、伝統行事などの体験学習を重視して多角的なアプローチから教育の充実を図った。また、多様な研修を通じて教員の資質向上に努めた。

(2) 連携の強化

八戸学院大学教員による英語教室、八戸学院大学短期大学部教員による造形教室、リトミック教室などを定期的に開催したほか、法人内上級学校との連携を密にして「星の子シアター」などの行事を成功させた。また、保護者や地域との連携活動も活発に展開した。

4. 国際教育部門

(1) 国際交流事業の強化

外国人留学生として、大学には中国・韓国、短期大学部にはインドネシア・タイ・ネパール・中国、八戸学院光星高等学校には中国・ナイジェリアからの学生・生徒が学んでいる。また、八戸学院大学では香港とノルウェーの大学を結ぶオンライン国際交流プログラムを開催するなどの取り組みが行われた。

(2) 関係校との連携強化

一般財団法人東北多文化アカデミーによる在学生（留学生）の現状確認と、相互往来により今後の留学生受け入れに関する打ち合わせを行った。また、学校法人仙台育英学園と留学生受け入れの協議をするなど積極的に連携を図った。

5. 管理運営

(1) 経費節減等の推進

経営基盤の強化が求められる中、引き続き「選択と集中」を意識した資源の投入を行い、経費節減と予算の効果的配分を行った。

(2) 施設整備計画の再構築

中期計画に基づく整備計画を踏まえつつ、教育環境の計画的な整備と老朽化に伴う緊急的な修繕を行った。令和7年度の主な整備内容は以下のとおりである。

- ・大学会館浄化槽改修工事
- ・美保野キャンパス受変電設備改修工事
- ・八戸学院光星高等学校5号館耐震診断および教室エアコン設置工事
- ・八戸学院光星高等学校通信制課程パーテーション設置工事・備品購入
- ・八戸学院ひばり野西高等学校生徒会館改修工事

Ⅲ. 事業の概要

1. 個性ある教育の推進

(1) 八戸学院大学

1) 重点目標

①教育の質の向上と研究の推進

- ・「建学の精神」の理解に向けた取り組みの継続と定着化

全学科1年生を対象とした「宗教学」において、令和4年度から始めた学校法人の歩みと建学の精神について学ぶ初回講義は、法官新一理事長による講話を継続して開講した。

また、カトリック八戸塩町教会のカストロベルデ・パトリック神父を招聘し、建学の精神 P J T、シングソングクワイヤーと聖書研究会が連携して、クリスマス・ミサを開催した。

- ・各学科における魅力、強みの実学化と地域への発信の強化

本学における教育のさらなる高度化を目指し、各学科における魅力・強みの実学化を推進し、令和8年度3学部体制の根幹となるカリキュラムをスタートした。

「地域を学びのキャンパス」とする取り組みについての議論を推進し、キャリアデザイン科目において八戸商工会議所からの講師派遣による連携講座を昨年度と同様に開設した。

特例措置による小学校教員養成課程開設に向け、八戸市教育委員会等の支援を受けて文部科学省へ申請し、令和7年12月22日に認可を受けた。

- ・教育課程の精選と学修成果の評価法のさらなる高度化

学修成果の評価において、本学独自に開発されたルーブリック評価法の経年的運用に基づいた学修成果の把握により、「教育の質」のさらなる高度化が継続された。

- ・強化指定部学生を含む全学生の学修支援体制の強化

強化指定部所属学生の学修支援体制の強化として、大学スポーツ協会（UNIVAS）のデュアル・キャリア支援事業を活用して展開した。

- ・就職支援活動の強化

就職活動の強化と連動させた「若者の県内定着へ向けた取組」として、八戸商工会議所との連携講座の実施および青森県人材育成協議会による就職説明会を実施した。

- ・課外における学生のボランティア活動の活性化

令和8年度に開催される全国障がい者スポーツ大会へボランティアとして参加する学生のオリエンテーションと集合型研修会を実施した。

- ・研究推進のための環境整備

学長直轄の研究D X P J Tを立ち上げ、オープンアクセスポリシーと研究データポリシーを定め、今後1年程度を目途に意見や質問を収集し、その後に規定の見直しを行う。また、運用上の問題点や見直しを検討するための組織として、研究D X P J Tを当面の間存続させ、学術情報リポジトリのホームページの充実を図り、ポリシーに従った運用が可能となるよう準備を進めていく。

②高大連携事業のさらなる強化

- ・系列高等学校との連携の拡充

系列校である八戸学院光星高等学校と八戸学院野辺地西高等学校へ対し、上級学校説明会、学校見学会、学園祭での展示や講師派遣を推進し、高大連携協定を締結している青森県立八戸西高等学校と青森県立三沢高等学校へは、講師派遣による連携活動を推進した。

また、学生募集の貢献を目的として、今年度は青森県立八戸東高等学校と以下の内容で「高校生の将来の進路に向けた課題発見とその取り組みへの支援」と「本学教員による専門的な体験授業の提供や課題解決のための支援」の連携協定を締結した。

- ・SDG s と高校探究学習に対する支援事業の推進

地域経営学部地域経営学科における地域の県立・私立高校（系列）のSDG s と探求学習に対する支援事業を継続し推進した。

- ・青森県立八戸水産高等学校・国際航海実習応援事業の推進

水産都市八戸市で頑張っている青森県内唯一の水産・海洋系高等学校である「八戸水産高等学校」の生徒たちの活動を地域の方々に知っていただき、その頑張りを大いに称えとともに、八戸の浜を元気に、地域を元気にする想いを高めあうことを目的として、今年度は2月17日（火）に、「八戸水産高等学校応援プロジェクトフォーラム」を開催した。

③地域との連携事業の強化

- ・個々の教員による大学の学びの魅力発信事業の検討

八戸学院地域連携研究センターで行っている「Wednesday Night Café」やB e FMの「はちがく地連研ニュース」において、学部・学科の学びの魅力を情報発信した。今後も継続して協議していく。

- ・八戸学院サテライト（美術館まちなかラボ）の活用促進

定期的な開催として、読み聞かせボランティアを開催し、別科助産専攻が保護者向けの健康教室を開催した。

- ・八戸市内高等教育機関との連携事業の拡充（八戸水産アカデミーの活動、八戸地域学の創成）
八戸水産アカデミーとしての活動は、実行委員会をはじめ、セミナー・講演会や県外での視察を実施した。

- ・法人スポーツ局、八戸スポーツコミッションとの連携による大学スポーツ資源を活用した地域振興事業の推進

法人スポーツ局が小学生・中学生を対象として主催している「八戸学院スポーツクリニック 2025」と「八戸学院スポーツチャレンジ 2025」に、強化指定部のスタッフ・選手が協力した。

④国際交流事業の強化

- ・オンラインによる国際交流事業の拡充

昨年度に引き続き、香港とノルウェーの大学を結ぶオンライン国際交流プログラムを開催した。

- ・国際交流団体（八戸国際交流協会等）との連携事業の推進

三沢米軍基地からの要望により、学生約 20 名がボランティアでスペシャルオリンピクスへ参加した。

2) 各学部・各学科の事業報告

①地域経営学部地域経営学科

- ・「地域が学びの場」をモットーに、フィールドワーク、課外活動等を充実させ、自ら地域に興味を持ち、自ら学び、主体的に課題解決に取り組む学生の育成に努める。その研究成果を「八戸SDG s フォーラム」で発表する。

ア. 加来ゼミナールでは、八戸地域の酪農業を活性化させることを目的に乳製品の 6 次産業化商品の開発に取り組んだ。トルコ料理で日常的に食されるカイマックの製品化を目指すと同時に、これに合う提供方法（パン作りや料理）を検討した。

イ. 川守田ゼミナールでは、八戸市の「学生まちづくり補助金」を活用し、「はちがくフラワーロスプロジェクト」と称して、地域で発生するフラワーロスの課題に着目した取り組みを行い、花の廃棄削減や新たな価値創出を目的に地域連携やイベント企画、調査・実践活動を進めている。

ウ. 横田ゼミナールでは、八戸水産高等学校の生徒と本学科の学生とが共に、地域の持続可能な発展の実現に向けて、前年度に引き続き「SDG s サミット」で議論するとともに、新たに同校海洋水産科主催の「植樹祭」にて植林活動を行った。

- ・「高大連携事業」強化の一環として、高等学校で行われている「総合的な探究の時間」を支援し、その成果を「八戸SDG s フォーラム」での発表に繋げる。

ア. 県内の主だった高校からの依頼で、各教員を派遣した。今年度も青森県内のみならず、岩手県立久慈高等学校への教員を派遣した。

イ. 3 月 22 日（日）に第 5 回「八戸SDG s フォーラム」をポータルミュージアムはっちで開催し、八戸市内の高校生が「総合的な探究の時間」の学習成果を報告した。

- ・高い就職率を維持するために、資格取得および教員採用試験・公務員試験対策を充実させるとともに、地域の企業との連携を強化・充実させる。

ア. 在学生（3 年生）が宅地建物取引主任者の資格を取得するとともに、ファイナンシャルプランナー 2 級・3 級、IT パスポート等の資格を取得する学生が増えた。

イ. 本学科教員が本学科学生に対し公務員向け面接指導やサブゼミ等での補習を行い、市役所職員、警察署職員に就職した。

- ・様々な機会を活用して、地域経営学科の 3 つのコース（公共政策コース・企業経営コース・地域産業コース）を県内および岩手県北の各高校に周知し、学生募集に繋げる。

ア. オープンキャンパスならびに県内および岩手県北の各高校からの学科説明の依頼を活用し、3 つのコース（公共政策コース・企業経営コース・地域産業コース）を高校の教員や生徒に周知した。

- ・今年度から、地域経営学科に新設された 3 つのコースのカリキュラムを軌道に乗せるとともに、旧来のカリキュラムにおける教育を滞りなく学生に提供する。

ア. 今年度の新設した 3 コース制の 1 年生に向けて新たな科目を支障なく提供するとともに、2 年生・3 年生・4 年生に対しては旧来のカリキュラムを滞りなく提供した。

②健康医療学部人間健康学科

- ・教育に関しては、今年度から新カリキュラムに移行していくことから、カレッジアドバイザーを中心に各コースの履修をはじめ、玉川大学と連携している小学校教諭二種免許状ならびに養護教諭や保健体育等の教員免許状の取得、健康マイスターや各種資格取得などの相談に応じるとともに、健康・学業などに課題を持つ学生からの多様な相談に応じた支援を確実に行う。また、実習科目における備品・設備の充実に努め、老朽化した機器類の更新を進める。

教育に関しては、カレッジアドバイザーを中心に、健康・学業などの課題を持つ個々の学生からの多様な相談に応じ、教育と支援を確実に行った。しかしながら、試験での不正行為や懲戒処分案件が複数件生じた。次年度に向けてオリエンテーションでの指導内容等、今一度検討、工夫が求められる。また、小学校二種免許課程開設に向けて調整・申請した結果、次年度からの課程開設が認可された。実習科目における備品・設備については、老朽化した機器や個人の機器を持ち出して実習対応するなどが生じているため、新設科目も含めて必要な備品・設備の更新を進めたい。

昨年度に引き続き障害を持つ学生や健康不安、学業などの課題を持つ学生の状況について学科内で共有するとともに、特別学生支援委員の教員が中心となりカレッジアドバイザーやスクールカウンセラーと連携を図り、相談・教育・支援を行った。また、心理、養護教諭、社会福祉士等の実習科目における道具・備品類の補充と更新を順次行った。

本学科で実施している八戸学院大学健康マイスターには、14名が申請し全員が認定された。

- ・就職・資格取得に関しては、高い就職率を維持するとともに、希望する資格の取得に向けてカレッジアドバイザーが就職課と連携して学生の支援に当たる。また、教員採用試験（養護教諭・保健体育）、J A T I 認定トレーニング指導者試験ならびに社会福祉士国家試験、食生活アドバイザーの合格に向けた取り組みを継続して行う。

就職・資格取得に関しては、高い就職率を維持するとともに、希望する資格取得に向けてカレッジアドバイザーが就職課と連携して学生の支援に当たった。就職率は、3月31日の時点で、100%に達している。

教員免許は、高等学校教諭一種免許状（保健体育）は28名、中学校教諭一種免許状（保健体育）は20名、高等学校教諭一種免許状（看護）1名を含む養護教諭一種免許状は13名が取得した。また、公立学校教員採用試験には、養護教諭2名（岩手県1名、北海道1名が現役合格した。

J A T I 認定トレーニング指導者試験は3名が受験し、全員合格した。J S P Oスポーツコーチングリーダーは4名が申請した。認定心理士の資格申請は20名が行った。社会福祉士国家試験は10名が受験し6名（合格率60%）が合格した。食生活アドバイザー試験2級は5名が受験し合格者は0名、3級では9名が受験し9名が合格した。2025年度あおもり食育検定では11名が受験し8名が合格した。

- ・地域貢献活動に関しては、地域住民も対象とした健康教室や講演など、自治体や企業と連携しながら健康増進活動を実施する。また、学生が主体となった様々なスポーツプログラムやボランティア活動を支援し、地域の子どもたちとの繋がりを育む活動に取り組む。

地域貢献活動に関しては、地域住民も対象とした健康教室や講演など、自治体や企業と連携しながら健康増進活動を実施した。

南部町社会教育課と連携して、「転倒・寝たきり予防教室における健康調査」を南部町の3地区（南部地区、福地地区、名川地区）において各2回の測定を実施したほか、今年度より南部町健康こども課からの委託事業として「こどもの健康応援プロジェクト」を実施した。本事業は学齢期の生活習慣が成人期や高齢期の生活習慣に大きな影響を及ぼすため、健康教室を通して学齢期から正しい生活習慣について理解し、行動できるように知識の普及や意識啓発を行うことを目的としている。内容は運動に関する講話と実技であり、5名の教員がシラバス作成、講義を行った。詳細については、八戸学院地域連携研究センターの頁を参照。

大学祭における「地域住民を対象とした健康調査」では、10月18日（土）、19日（日）の両日で176名の来場者、教員7名、学生スタッフ33名による、身長、体組成、骨密度、血圧、握力の測定と、貧血検査を行った。測定終了後は、参加された地域住民に対して学生による結果の説明を行った。

今年度の地域医療セミナーは、12月11日（木）520講義室において、医療法人芙蓉会こころのケアセンターふよの鈴木克治（スズキカツジ）医師を講師に招いて、「精神医療の現状

と課題」をテーマに実施した。

また、健康医療学部公開講座は、「地域で育むヘルスリテラシー子どもから高齢者まで」をテーマに、3月22日（日）ポータルミュージアムはっちで開催した。

- ・研究活動に関しては、科学研究費補助金などの外部資金の獲得に積極的に取り組む。

研究活動においては、科学研究費補助金への申請は1件（基盤C）であった。また、本学の「イノベーションプログラム（基金）研究等補助金」には2件、「特別研究費」には1件の申請があり、いずれも承認された。また、地域連携研究センターと連携し、八戸市重層的支援体制整備事業に係る他機関協働のためのネットワークセミナー（4回実施）を八戸市（福祉政策課）から委託を受け実施した。

- ・健康医療学部人間健康学科は、平成17年度に人間健康学部人間健康学科として開設されてから令和6年度で20周年を迎えたことから、令和7年度は改組をPRした学生募集に結びつく事業として、「人間健康学科20周年記念事業」に取り組む。

「人間健康学科開設20周年記念事業」のため学科内プロジェクトチームを結成し、7月19日（土）に国内外のプロ野球チームでトレーナーやコーチを歴任した「中垣征一郎氏」を迎え、「スポーツを通じた学びとキャリア形成～大学でスポーツを学ぶ意義～」と題して、人間健康学科設置20周年記念特別講演会を実施し、中学生、高校生ら約100人が聴講した。

③健康医療学部看護学科

- ・新カリキュラムを提供するとともに新カリキュラムの評価を行う。また、むつ下北キャンパスの対面授業、オンライン授業を滞りなく実施する。

新カリキュラムを滞りなく実施した。新カリキュラムの評価を1月の領域看護代表者会議で行い、改善を要する点について検討した。令和9年度のカリキュラム改正に向け、さらに検討を継続することにした。また、むつ下北キャンパスのオンライン授業は当初、通信が上手くいかないこともあったが教務課のサポートもあり、徐々に慣れ実施できていた。対面授業については問題がなく、対面授業に伴う通学について、バスの移動時間を休息にあてるなど有効活用していた。

- ・国家試験合格率100%を目指した国家試験対策を計画的に推進する。

国家試験対策は、国家試験委員が中心となり、月曜日と金曜日に学習スケジュールを組み、業者模試、各領域の補講、業者のセミナー等を行った。模試の結果や対策日の欠席者には個別指導が行われている。せっかくの対策日に個別的な理由で欠席する学生も数名いるため、今後のさらなる対策が必要である。国家試験の日程は看護師が2月15日（日）、保健師が2月13日（金）に実施され、結果発表は3月24日（火）に結果が発表された。国家試験の結果については、看護師は61名中58名合格（合格率95.1%）、保健師は10名中9名合格（合格率90%）であった。看護師の全国合格率（新卒）の94.5%よりやや高い結果であった。看護師国家試験の不合格者3名は准看護師免許を取得しているため、就労しながら次年度に改めて看護師国家試験に挑戦する予定である。

- ・特別な支援を必要とする学生（心身の不健康・留学生・社会人経験者・編入生・強化指定部学生・成績不良者など）に、きめ細かい学習支援を実施する。

特別な支援を必要とする学生（心身の不健康・留学生・社会人経験者・編入生・強化指定部学生・成績不良者など）に、ゼミ担当者・カレッジアドバイザー教員、各教科担当者がきめ細かい学習支援を実施した。しかしながら、成績不良による進路変更からの退学者も昨年度より増加した。支援が必要な学生の情報は学科会議や実習委員会等で共有している。学生への対応にはコンプライアンス違反にならないよう、今後勉強会を実施する必要がある。

- ・地域医療に関わる教育・研究活動を通して、地域との交流を図って地域貢献に繋げ、学外に発信する。

地域医療に関わる教育・研究活動を通して、小児救急看護の講師、喀痰吸引研修の講師、南部町の妊産婦新生児訪問、南部町こどもの健康応援プロジェクトへの参加、青森県看護協会主催の研修講師、病院の院内研修の指導、病院研修の講師、保健師研修の講師などを行っている。また、地域連携の研究も人間健康学科の教員と共同研究者として参加している。地域住民への貢献として、地域医療セミナー、公開講座は例年どおり開催している。公開講座は住民の参加が少なかったことを踏まえ、公開講座の広報活動をより行う必要があった。

- ・看護学科の強みを学生募集に活かし、入学者増を目指す。

広報委員会を中心にオープンキャンパス、高校訪問、出張講義、進路・説明会などを実施

した。また、夏休みを利用して在学生在出身高校に行き情報提供も実施した。今年度の受験者数は昨年度より若干少なめである。むつ下北キャンパス入学生については、高校生だけではなく、社会人を対象とした学生募集活動を展開する必要があるため、行政等と協議しながら進めていく。高大連携や地域との連携を拡大し、看護学科を地元の大学として認識されるように広報活動を継続していく。

④別科助産専攻

- ・開設3年目を迎え、現行カリキュラムの改善点を検討すると同時に教育環境を充実させ、教育を滞りなく学生に提供する。

全国助産師教育協議会の「望ましい助産師教育におけるコア・カリキュラム」をもとに小項目146、学習目標645について照合・点検し、その結果7つの課題が見つかった。いずれもカリキュラム変更の必要はなく、現在、改善策を検討中である。現行カリキュラムに基づいた教育は滞る事無く提供できた。

- ・地域貢献として、「未就学児の性の健康教室」と「高校生女子アスリートへの健康教室」を継続して実施する。

健康教育技法の一環として、法人内3幼稚園（年長園児と保護者）、フィールド活動として八戸学院サテライトキャンパスまちなかラボ（八戸市美術館）で、未就学児を対象に性の健康教室（一般公募による幼児と保護者）を開催し、学生が未就学児対象に実施し、保護者対象の相談やアドバイスは教員が担当した。また、八戸学院光星高等学校においては高校生女子アスリートを対象に、「月経とスポーツ」について健康教室を開催した。本学と連携協定校である青森県立八戸西高等学校と青森県立三沢高等学校においては、同様の健康教室を2月に開催した。

- ・国家試験対策を充実させ、全員合格できるよう支援する。

全国模擬試験を3回受験、国家試験に向けた教員出題の試験を3回実施、夏期・冬期休暇時の課題学習（問題集を解く）、外部主催セミナーの紹介などを実施し、支援を継続した。

- ・別科助産専攻の特色を学外へアピールし、定員充足に向けて積極的に取り組む。

8月に青森県・岩手県の教育機関29校と青森県内の医療機関12施設に、別科リーフレットとインスタグラムのチラシを送付した。また、地域活動は2社の新聞に掲載され、大学ホームページにもアップされた。Instagramは定期的に更新し、その結果、オープンキャンパスへの来場者は昨年度より多く、入試受験生は8名で倍率は2倍となり定員を確保することができた。

3) 財政基盤の強化

①法人内各学校からの入学

八戸学院光星高等学校ならびに八戸学院野辺地西高等学校に対して、八戸学院大学および八戸学院大学短期大学部の理解促進を図ることを目的として、高大連携事業を例年同様に実施した。具体的には、両高等学校教員のほか生徒への上級学校説明会やキャンパス見学会、文化祭への出展などが挙げられる。また、平成30年度からは、八戸学院光星高等学校の生徒に対して、八戸学院大学ならびに同短期大学部の講義の受講機会を提供しており、令和2年度からは、これまで開講していた外国語関係講義に韓国文化を追加し、多文化に触れられる機会を設けるなど、より密接な連携を進めてきた。系列高等学校からの入学者数は次表の通りである。

<系列高校入学者数（過去5年間）>

年度・学科名		光星高校			野辺地西高校			合計
		男	女	計	男	女	計	
令和7年度	地域経営学科	4	2	6	7	0	7	13
	人間健康学科	7	8	15	2	0	2	17
	看護学科	1	5	6	0	2	2	8
令和6年度	地域経営学科	10	2	12	1	0	1	13
	人間健康学科	1	4	5	0	1	1	6
	看護学科	1	1	2	0	0	0	2

令和5年度	地域経営学科	17	5	22	2	0	2	24
	人間健康学科	2	7	9	4	0	4	13
	看護学科	0	4	4	0	0	0	4
令和4年度	地域経営学科	12	3	15	3	0	3	18
	人間健康学科	2	6	8	4	1	5	13
	看護学科	2	8	10	1	2	3	13
令和3年度	地域経営学科	9	6	15	6	0	6	21
	人間健康学科	6	5	11	2	0	2	13
	看護学科	0	5	5	0	1	1	6

(既卒者含む)

②退学防止策

カレッジアドバイザー会議を学部・学科ごとに毎月定期的に開催し、学業や生活面において問題を抱えていると思われる学生について、教員間で情報を共有して指導を行っている。また、問題を抱えている学生の情報を学内WEBシステムに記録することにより、全教員が情報を共有することが可能となっており、全学をあげて退学防止に努めてきた。なお、運動部に所属する学生が多いため、指導者との情報共有も密にした。

<地域経営学科における退学・除籍理由の内訳：件数（過去5年間）>

学科名	項 目	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	合計
地域経営学科	①-a 学業不振（4年生）	0	1	0	0	1	2
	①-b 学業不振（3年以下）	0	0	1	0	0	1
	②部活動退部のため	1	1	0	0	1	3
	③環境不適合	0	2	0	1	2	5
	④経済的事情	0	2	7	9	2	20
	⑤他の教育機関へ進路変更	1	1	0	4	0	6
	⑥就職等の理由	0	3	0	9	5	17
	⑦上記以外	1	4	4	1	1	11
	計	3	14	12	24	12	65

<人間健康学科における退学・除籍理由の内訳：件数（過去5年間）>

学科名	項 目	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	合計
人間健康学科	①-a 学業不振（4年生）	0	0	0	1	1	2
	①-b 学業不振（3年以下）	0	0	0	0	1	1
	②部活動退部のため	0	0	0	0	5	5
	③環境不適合	0	1	0	0	0	1
	④経済的事情	2	7	5	3	4	21
	⑤他の教育機関へ進路変更	1	3	1	4	2	11
	⑥就職等の理由	2	3	0	6	8	19
	⑦上記以外	2	5	12	0	0	19
	計	7	19	18	14	21	79

<看護学科における退学・除籍理由の内訳：件数（過去5年間）>

学科名	項 目	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	合計
看護学科	①-a 学業不振（4年生）	0	0	0	0	0	0
	①-b 学業不振（3年以下）	0	1	0	0	3	4
	②部活動退部のため	0	0	0	0	0	0
	③環境不適合	0	1	0	0	1	2
	④経済的事情	1	1	2	0	0	4
	⑤他の教育機関へ進路変更	0	1	0	1	0	2
	⑥就職等の理由	0	0	0	1	2	3
	⑦上記以外	2	1	1	0	2	6
	計	3	5	3	2	8	21

(2) 八戸学院大学短期大学部

1) 重点目標

①各学科の特性・強みの強化と教育の質の向上

幼児保育学科では2コース制がスタートし、令和7年度は23人の3年コース生が誕生した。教職員が広報活動に努めた結果、令和8年度入試では3年コースの希望者が増加した。介護福祉学科では留学生を安定的に確保するための連携事業所を拡大した。また、八戸学院大学健康医療学部人間健康学科とのカリキュラムの接続のために協議を行った。

②地域をフィールドとした教育・研究活動の推進と、その魅力の発信

両学科ともにそれぞれゼミナール、サークル、行事、ボランティア等で地域をフィールドとした活動が活発に展開され、それらを通じて学びの魅力を発信した。

③多様な背景を有する学生へのきめ細かい学修支援

病気によって登校困難な学生に対しては、学科全体で合理的配慮を行った。また、障害により学習に困難を抱えた学生に対しては、保護者とも連携し、卒業後の進路を見据えた支援を行った。留学生に対する支援については学科の項を参照。

2) 各学科の事業報告

①幼児保育学科

・既存の2年コースと今年度新設される3年コースの円滑な運営

令和7年度より、既存の2年コースに加え、3年コースがスタートした。昨年度報告した通り、時間割の編成・実習の実施時期・行事の運営方法等を事前に検討し、教職員間で共有してきたことから、新体制1年目であったが、大きな混乱もなく円滑な学科運営と教育活動を遂行することができた。特に、水・金曜時間割については、変更を重ねながらも、その都度、関係部署や担当者と連携・協力し、進めることができた。

・地域における学びや地域貢献活動の活性化

今年度も、ゼミナール単位で担当教員の専門性を活かした学外活動が活発に行われた（延べ38件）。また、「地域文化論実践講座Ⅰ・Ⅱ」の授業では、各学年で年間3回以上のボランティア活動への参加が求められているが、今年度は各学年とも多くの学生が4回以上のボランティア活動を行っており、「地域における学びの活性化」は達成したと評価する。

他にも「イオンモール下田30周年記念企画合同学園祭」（7月）、サンフェスHACHINOHE2025」（9月）、八戸産学官連携推進事業「高等教育機関・市内企業PR」イベント（12月）等、短大のPRを兼ねた地域イベントへの参加も果たせ、地域貢献に寄与することができた。

・系列幼稚園および高等学校との連携強化

法人内の幼稚園、高等学校との連携については、年間を通して延べ49件の活動が行われており、連携強化が図られたと判断する。しかし、昨年度同様、系列高校との連携については、双方の学年歴等の関係上、生徒と学生が合同で行う行事型の事業や活動は難しいため、入試関連の情報交換・共有に留まっている。

・学生募集の強化

学科の特色を活かした取り組みについて、オープンキャンパスで、その発信に努めた。オープンキャンパスでは、学生による進行と学内案内、学科教員による模擬授業など、高校生が本学を身近に感じられるような企画で実施した。今年度は、午前の学科説明のあと、学食体験をはさみ、午後に体験授業を実施することとし、学内で過ごす時間を長くしたことで、参加者に学生気分を味わってもらおうと企画した。また、広報委員会の教員を中心に、学科教員の協力もいただき、多数の高校に訪問し、幼児保育学科の魅力を発信することができた。3年コースについての説明や学科名称変更などの新しい情報も携えて、学生の幼児保育学科での学びや活動を積極的に伝えることができた。

②介護福祉学科

・社会のニーズに対応した人材育成

基幹科目では支援の根拠となる情報収集能力を高めるための演習を多く取り入れ、観察・確認する視点を定着させるためにカードゲームやICT教材を活用した。生活支援技術の演習では、具体的な利用者を想定し、生活場面ごとに自立支援につなげる支援方法をグループで検討・実施、評価を繰り返し、根拠ある実践(技術)を積み上げている。また、介護総合演

習Ⅳでは事例研究報告会を実施し、学生は実習内容を振り返りながら、その結果や課題に基づいて調査・研究した内容を発表した。

・社会の多様性や変化に応じた教育・研究活動を通じた地域貢献

災害エスノグラフィーの取り組みを広く地域住民に理解してもらうため「KAIGO FESTA」を開催した。また、「認知症」の理解促進のため、八戸市や洋野町や岩泉町に出向いて、認知症サポーター養成講座を実施した。学生が介護レンジャーを結成し活動したところ、小学生から高齢者まで広く介護に関心に向けてもらうきっかけとなった。

・入学生のレディネスの多様化・多国籍化に対応した学生支援

留学生を対象にした初年次教育として「日本語の理解」の促進を図り、さらに「専門用語の理解」といった専門職者として基本的な理解が必要な語句を確認する時間を設けた。また地域文化論を活用して、南部地域の文化や生活習慣の理解を深めた。学習支援においては、カレッジアドバイザーの個別面談による学修相談、日本語理解が十分でない学生への補足指導などを実施した。生活支援としては、学科の留学生担当者3名および教学部学生課担当者と毎月情報交換を行い、学外では留学生の所属する法人や南部町と適宜情報交換を行った。

・介護福祉士資格国家試験 100%を目指した国家試験対策の計画的な実施

1年次から各科目担当者が、授業の振り返りシートや定期試験に国家試験の問題を取り入れたり、国試ナビを活用した単元のまとめを行ったりして、継続的に学習指導を行った。2年次は模擬試験の結果を分析した個別指導や、弱点科目に対する補講・対策講座を計画的に実施した。これらの取り組みの結果、令和7年度介護福祉士国家試験の合格率は100%となった。

・系列校及び小学校・中学校・高校、事業所との連携による入学者の確保

系列高校との連絡会、進路説明会や体験授業を実施し、進学意欲の醸成に努めた。また、小学校・中学校・高等学校に対しては、出前授業や認知症サポーター養成講座、SOS模擬訓練などを行い、将来的な「介護」への意識付けに努めた。加えて、外国人介護人材の採用を視野に入れた事業所の掘り起こしを行い、連携先を拡大した。

3) 財政基盤の強化

①法人内各学校からの入学

例年同様、法人内高等学校に対して本学の理解促進を図ることを目的として、高大連携事業を実施した。学科ごとに光星高等学校保育福祉科との連絡会議を実施し、情報共有を図っている。また、介護福祉学科では進路説明会や体験授業を行うほか、事例研究報告会に保育福祉科の1・2年生が参加した。そうした連携の成果として、光星高等学校保育福祉科の生徒数減少を受けて減ってはいるものの、一定の入学者を得ることが出来ている。

系列高等学校からの入学者数は次表の通りである。

年度・学科名		光星高校			野辺地西高校			合計
		男	女	計	男	女	計	
令和7年度	幼児保育学科	0	22	22	1	0	1	23
	介護福祉学科	3	4	7	0	1	1	8
令和6年度	幼児保育学科	0	27	27	0	1	1	28
	介護福祉学科	2	1	3	2	0	2	5
令和5年度	幼児保育学科	1	28	29	0	1	1	30
	介護福祉学科	2	8	10	0	0	0	10
令和4年度	幼児保育学科	0	28	28	1	4	5	33
	介護福祉学科	5	7	12	0	1	1	13
令和3年度	幼児保育学科	2	32	34	0	1	1	35
	介護福祉学科	2	1	3	0	1	1	4

②退学防止策

退学防止策として、両学科ともに出欠状況調査を行い、情報を教員間で共有している。欠席が目立つ学生に対しては、ゼミナール担当教員（カレッジアドバイザー）が中心となり、状況

に応じて学生相談室担当教員も交えながら面談を行う。その情報は学科教授会で共有し、学科全体で学業継続のための支援に努める。この過程で保護者と連携して支援の方法を探ることもある。最終的にはゼミナール担当が学科長・教務委員とともに本人・保護者と面談を行い、意思を確認する。介護福祉学科ではこうした対応が実り、退学者ゼロが継続している。

＜幼児保育学科における退学理由の内訳：件数（過去5年間）＞ ※3月31日現在

学科名	項目	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計
幼児保育学科	①学業不振	0	0	0	0	1	1
	②経済的事情	0	2	2	0	2	6
	③進路変更	1	3	1	1	1	7
	④傷病	0	0	0	1	0	1
	⑤一身上の都合	2	4	1	3	1	11
	計	3	9	4	5	5	26

＜介護福祉学科における退学理由の内訳：件数（過去5年間）＞ ※3月31日現在

学科名	項目	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計
介護福祉学科	①学業不振	0	0	0	0	0	0
	②経済的事情	0	1	0	0	0	1
	③進路変更	0	2	0	0	0	2
	④傷病	0	0	0	0	0	0
	⑤一身上の都合	3	0	0	0	0	3
	計	3	3	0	0	0	6

（3）八戸学院図書館

1) 利用環境

①書架の増設

開架書架および閉架書架（書庫）の狭隘化により、古い情報処理関連の資料を除籍したほか、「八戸学院図書館における雑誌・新聞資料の処分に係る内規第2条」により定めた保存期間10年を過ぎた平成27年以前発行の和雑誌（未製本）の廃棄、および永年保存である地元紙（デーリー東北新聞）以外の保存していた令和4年の新聞を廃棄し、新たな資料を保管するスペースを確保した。

毎年新規購入図書と寄贈図書、雑誌など新たに約2,000冊を超える資料を収集・保存することから、今後も開架書架の増設を検討していく必要がある。また、貴重資料の保管や地元新聞の永年保存等によって閉架書架（書庫）の狭隘化が進んでおり、除籍による廃棄や書庫に収納しきれない資料については、除籍予算額の増額または書庫の増設など保管場所の確保を検討していく必要がある。

②学習環境の整備

学生の個人学習、グループ学習等多様な学習スタイルに対応するため、学習スペースの拡充や柔軟な使用を可能にするよう整備を行ってきた。グループ学習の専用スペースである「ラーニング・コモンズ」の代替としてチャペルや個別学習室をラーニング・コモンズ空間として活用する機会を増やすため、説明会や掲示等で周知することを継続して行ってきた。また、PC使用の要望に答えるため、学生持参のノートPCを利用可能にすると共に貸出し用ノートPC14台を引き続き利用可能とし、設置してあるプリンターにて文書印刷等の要望にも対応した。

館内の冷暖房については、現在2階南側にエアコンが4機設置されているが、2階北側と1階には設置されていないため、夏場については数台の扇風機で対応した。エアコンの設置については快適な空間を保持するために設置を継続して要望していく。

③資料の整備

介護福祉学科や別科助産専攻などの資料がまだ不十分であることから、関係する資料の整備をしたほか、他の学科に関わる新規資料の整備に努めた。また、読書推進の観点から学生が興味を引くような本屋大賞作品やノミネート作品などの小説、話題性のある図書の整備を行うと

ともに、1階中央に特集スペースを随時作成し、学生の興味関心を喚起するよう努めた。

④施設設備の修繕及び整備

図書館は築25年が経過しており、館内の各所にある窓や扉・トイレなどの施設設備が故障してきているため、その点検と修繕に努めた。キャンパスの景観を損ねないために外壁の汚れやタイル等の破損が激しく目立っている場所の修繕を要請してきた。

また、新たに防犯の観点から、2階などスタッフの目が届きにくい箇所に防犯カメラの設置を要請してきた。その他、来客対応のための応接室設置やスタッフのワーク・ライフ・バランスの観点から休憩室の設置についても検討し要請してきた。

2) 地域との連携と交流

①八戸工業大学との連携

恒例となっている読書週間の「図書の交換展示」を継続して行うほか、本館と八戸工業大学図書館との合同ビブリオバトルを引き続き開催し、他の高等教育機関や系列高校の生徒の参加を促し、交流を模索することを計画した。

10月の八戸工業大学学園祭時に4回目の「八戸学院大学・八戸工業大学ビブリオバトル交流会」を実施した。また11月には恒例となっている図書の交換展示を読書週間に実施した。今回も双方の学生が互いの図書館に出向き交換する図書を選書した。

②デーリー東北新聞社との連携

「ビブリオバトル in ハチノヘ」の運営に参加するほか、本学の学生および教職員や系列高校など法人内各施設への参加呼びかけを行うことを計画した。

第12回「ビブリオバトル in ハチノヘ」をデーリー東北新聞社と共同で開催し、系列高校など法人内各施設へ参加呼びかけを行ったが今回は日程が合わず本学からの参加はなかった。

③八戸ブックセンターとの連携

「ひと棚」企画に本学の教員推薦を行い、本学教員の「アカデミックトーク」を八戸ブックセンターで行うほか、学生の「ブックハンティング」を継続して実施していくことを計画した。

「ひと棚」企画へ本学の福田弥夫氏を推薦し、企画を実施したほか、市民大学講座をアカデミックトークに代えて連携事業とした。また毎年恒例である学生の「ブックハンティング」を実施した。

ブックリスト「本はともだち」関連企画「本とあそぼう！～おやこで楽しむ「本はともだち」～」に本学の三上幾子氏が登壇した。

3) 広報活動

図書館の利用促進や読書推進のための広報活動を積極的に実施していく。具体的には学内向けフリーペーパー「六号館」を毎月発行するほか、ホームページやSNS等での発信を行っていくことを計画した。

また、学生参加の「ビブリオバトル」や「ブックハンティング」等のイベントを開催し、新聞等のメディアに情報を提供していくこととした。

図書館の利用促進や読書推進のために、学内向けフリーペーパー「六号館」を毎月発行したほか、ホームページやSNS等での発信を行った。また、本館主催の「八戸学院図書館ビブリオバトル」に系列の八戸学院光星高等学校の生徒を参加させたほか、八戸工業大学との共同開催およびデーリー東北新聞社との共催「ビブリオバトル in ハチノヘ」の開催を通して、系列校以外の高校生や中学生と交流し、読書推進や「ビブリオバトル」の普及に努めた。

その他、「ブックハンティング」等のイベントを開催したほか、新聞等のメディアに情報を提供した。

(4) 八戸学院地域連携研究センター

1) 基本事業

地域の文化・産業・スポーツや国際交流の分野で、産学官金での連携（シンクタンク機能）強化を図り、地域の経済活動と教育・研究活動が連動した調査研究や実証事業を行った。

八戸市、南部町、おいらせ町などから、多くの新規委託事業を受託した。

防災士養成講座は、学内関係者の受講料見直しや広く周知を行ったことで、100名を超える

申し込みとなった。

2) 継続事業

以下の、自治体からの委託事業および自主事業を行った。

- ・「まちなかラボ」の利活用促進に係る事業（自主事業）
昨年度の利活用は88回（うち有償22回）であったため、今年度は打ち合わせやイベントで積極的に利用するよう法人内に周知した。その結果、121回（うち有償22回）と昨年度を上回る利活用があった。
- ・大学資産を活用したアートの学び事業（八戸市委託事業）
大学との連携により、大学が有する専門性と美術館が有するアートの専門性を融合させ、新たな価値や活動を生み出す「アートの学び」の提供により、人材育成や地域経済の活性化に関する事業として以下のとおり実施した。（ ）内は実施日と参加人数である。
 - ①高等教育機関のアートセミナー事業
「ブリリアント・ミネラル」（9/7 19名）
講 師 八戸工業高等専門学校 校長 土屋 範芳
「流れの不思議と美の世界」（11/3 14名）
講 師 八戸工業大学 学長 船崎 健一
「光を通して模様を感じる～ステンドグラス風アート体験～」(1/25 42名)
講 師 八戸学院大学短期大学部幼児保育学科 講師 渡邊 雄介
「親子でつくろ！新幹線」(2/1 82名)
講 師 八戸学院地域連携研究センター 教授 福田 弥夫
 - ②アートマネジメント事業
「小さい庭をつくろう」(9/13 14名・9/14 18名)
講 師 香月園 代表取締役 橋本 正
「曾孫が語る前原寅吉」(10/4 25名、10/5 27名)
講 師 マエバラ 代表取締役 前原 俊彦
 - ③アート×幼児教育
「託児サービス」6回(6/29 3名・7/6 4名・8/17 5名・9/7 3名・10/5 5名・1/25 11名)
講 師 八戸学院大学短期大学部幼児保育学科 教授 加藤 康子
「ワンパーク」2回(11/1 30名・12/6 30名)
講 師 八戸学院大学短期大学部幼児保育学科 教授 差波 直樹
「ベビーファーストデー」全2回(11/10 4名・3/2 2名)
講 師 八戸学院大学短期大学部幼児保育学科 教授 加藤 康子
- ・防災士養成講座（自主事業）
第12回防災士養成講座を、9月20日（土）・21日（日）に実施し、100名が受講した。資格試験に不合格となった受講者対象に、1月11日（日）に補講および資格試験を行った。
- ・大人のためのスピードスケート教室（八戸市委託事業）
職員と学生が指導を担当し、計4回（9/13・9/27・10/4・10/11）実施し、延べ77名の参加があった。

3) 新規事業

以下の新規事業を行った。

- ・まちなかラボ公開講座「Wednesday Night Cafe」（自主事業）
(4/23 5名・4/30 17名・5/7 2名・5/21 7名・6/11 5名・6/25 3名・7/9 11名・10/22 6名・11/26 9名・12/17 8名・2/18 5名・3/11 11名)
- ・八戸市地域福祉計画策定に係る市民アンケート調査業務（八戸市委託事業）
- ・多機関協働のためのネットワーク推進事業（八戸市委託事業）
セミナー4回（10/27・11/17・12/22・1/26 延べ146名）
- ・八戸市外国人介護人材交流会等業務（八戸市委託事業）
 - ①研修会 4回（11/1・11/8・12/20・12/27 申込者数5名）
 - ②交流会 1回（12/27 21名）
- ・南部町こどもの健康応援プロジェクト（南部町委託事業）

対 象 者：小学2年生・5年生

実施学校：南部小学校、名川小学校、福地小学校

実施回数：各校2回

内 容：運動に関する講話と実技、生活習慣に関する講話と実技（5年生のみ）

①小学校低学年健康教室

南部小学校 2年生 23名（9/1・12/3）、名川小学校 2年生 34名（9/2・12/17）

福地小学校 2年生 35名（9/3・11/4）

②小学校高学年健康教室

南部小学校 5年生 19名（7/14・12/8）、名川小学校 5年生 42名（7/4・12/12）

福地小学校 5年生 37名（7/16・11/12）

- ・おいらせ町臨時託児所設置事業（おいらせ町委託事業）

9月27日開催のおいらせ町主催「専門講座」に合わせ託児所を開設した。

- ・三八地域「あおもり型農村RMO育成事業」（青森県委託事業）

地域住民を対象とした座談会、地域資源の活用可能性調査、住民意識調査、むらづくりビジョン作成を行った。

（5）八戸学院健康・スポーツ科学研究所

1）事業目的

- ①「スポーツの八学」のブランド力のさらなる強化に向けて、スポーツ科学の学びと運動競技部活動との融合とした科学的根拠を伴うスポーツ競技力の向上を支援する研究課題の探求、および関連研究領域を有する各学科教員との連携に基づく研究者の人材育成と研究組織の構築に努めた。
- ②健康の維持・増進が青年のスポーツパフォーマンスの向上の基盤と考えて、身体運動・スポーツの習慣的実践が就学前幼児を含む子どもの発育・発達の促進、および成人・高齢者の生活習慣病・フレイルの予防に及ぼす効果の解明について、大学2学部3学科と短大学部2学科の関連教員との連携体制の構築に取り組んだ。

2）新規事業

①健康とスポーツに関する研究

＜スポーツ科学の推進事業＞

スポーツ競技種目の枠を超えて、アスリートが最高のパフォーマンスを発揮できるためのコンディショニングサポートに資する研究を企画した。アスリートにおける日々のトレーニング・試合等の心身の疲労からの回復促進を生み出すことが可能と想定される最新技術・処方方術に関して、関連企業と連携して、予備実験・研究に着手した。

＜子どものマルチスポーツ実践事業＞

令和7年度スポーツ庁委託事業「感動する大学スポーツ総合支援事業 ③大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出事業（タイプA）」の採択（全国5大学）を受けて、「氷上スポーツと陸上スポーツで構成する『マルチスポーツプログラム』構築実践事業を八戸市スポーツ推進課と連携して展開した。子どものマルチスポーツプログラムへの参加が心身のウェルビーイングへ及ぼす効果の解明についての研究を企画した。

＜中高年者の健康増進推進事業＞

八戸学院地域連携研究センターとの共同により、太陽生命少子高齢社会研究所と日本ゴルフ協会との共同研究として「中高年齢者におけるゴルフ習慣の形成が心身の健康へ及ぼす効果」の解明について取り組んだ。

②研究と調査から得られた成果の地域への提供および啓蒙活動の実施

- ・研究所開設以前の研究成果に基づき、「子どものマルチスポーツ実践事業」において、参加幼児の保護者を対象とした「食育教室」と「生活習慣教室」を開講した。
- ・本研究所の研究成果の地域への発信を伴う啓蒙活動に関して、八戸市スポーツ推進課と協議を開始した。
- ・スポーツ庁・UNIVAS 主催の「感動する大学スポーツ支援事業成果報告会」（3月9日）において、受託事業「氷上スポーツと陸上スポーツで構成する『マルチスポーツプログラム』構

築実践事業」の成果を報告した。

- ・太陽生命少子高齢社会研究所と日本ゴルフ協会との共同研究の成果を最終報告書としてまとめた。

③研究成果の教育課程への反映および課外講座等の実施

- ・「子どものマルチスポーツ実践事業」における氷上スケート運動と陸上運動（バスケットボール、ラグビー、サッカー、陸上競技）から構成されるマルチスポーツ教室は、学科ゼミ活動および課外活動強化指定部活動と連携の上、開催された。
- ・「中高年者の健康増進推進事業」の運動習慣形成のための取り組み前後における測定調査は、学科ゼミ活動および課外活動強化指定部活動と連携の上、実施された。

④その他、研究所の目的達成に必要な事業

- ・学内外の研究活動補助金の獲得を目指して、研究費の申請を実施した。（研究代表者；所長・3件；共同研究教員・2件）
- ・健康・スポーツ科学研究所における研究活動推進のため、学校法人光星学院イノベーション基金への寄付依頼の活動に取り組んだ（寄付受託企業；1社）。

（6）八戸学院光星高等学校

1) 重点目標

- ①礼節を重んじ、人と愛情を持って接し、積極的に自己啓発に努める人材育成
- ②弛まぬ努力により学力を伸長させながら、幅広い教養を身に付け想像力に富む人材育成
- ③心身の鍛錬により、強健な身体と強靱な精神力を持つ人材育成

2) 各科の事業報告

①普通科

- ・学習支援クラウドサービス「Classi」とiPadを活用した完成年度で、課題配信・授業活用・宿題・添削のPDCAサイクルが構築され、ポートフォリオ記録の習慣化が定着した。
- ・全体の進学率243名（78.2%）うち4年制大学は128名（63%）であった。
- ・今年度より年次制での学校運営にしたことにより不登校傾向の生徒に対する支援、指導に厚みが増し、昨年度までの数からかなり減っている。1年次1名・2年次3名・3年次0名となっているが、3年次生は補習等を行い卒業まで指導体制を続け、1・2年次生については通信制への転籍も含め継続指導を行っている。

<特別進学コース>

- ・今年度の主な進学実績は国公立大学5名、他私立大学には多数合格し大学進学予定者は全員が進学先を決定し卒業した。
- ・今年度も大学入試問題を中心とした実践的学習を行い英・数・国の教科書の内容は2年次までではぼ終了させた。3年次には大学入学共通テスト対策をはじめ、より実践的な演習を行い、共通テストは26名が受験した。
- ・夏期・冬期・春期休業や放課後講習を計画的に実施できたことが、主要3教科の授業進度を早められた要因である。
- ・部活動でも中心となる生徒が多く在籍していたため、スポーツ推薦で進路決定し競技を継続する生徒も数名いる。

<進学コース>

- ・主な進学実績は東京農業大学・拓殖大学・東京医療保健大学・鎌倉女子大学・東北学院大学・東北福祉大学・東北工業大学などである。
- ・特別進学コースと同じ模擬試験を1・2年次は年3回、3年次は年1回実施したことで受験に対する意識が上がり4年制大学進学率の向上につながった。
- ・普段の授業から進学に向けた実践的演習を積ませた結果、総合型選抜・学校推薦型選抜・指定校推薦・資格特待生受験での合格者が多数出た。
- ・国際教養系は大学の学修（韓国文化）の受講やクラスメイト（オンライン語学学習）を有効活用したことで内容も充実してきた。また、2年次14名が韓国ソウルに修学旅行を実施し昨年度はできなかった学校交流をアヒョン産業情報高校で行うことが叶い、国際的な友好と学びを深めることができた。

- ・今年度の海外留学生、中国 3 名・ナイジェリア 1 名が在籍。次年度はナイジェリア 1 名が決まっている。

＜総合学習コース＞

- ・入学直後の基礎学力定着テストによって個人個人の弱点を洗い出し、低学力の生徒には個別指導（学び直し）を行い、課題学習を多く取り入れた。また、英検・漢検にも意欲的に取り組ませ、進路決定に向けた取り組みを 1 年次より意識させ指導した。
- ・就職希望の生徒には専門教科の検定試験（溶接・トレース・簿記・情報処理など）に意欲的に取り組ませ、資格取得を促した。

＜スポーツ科学コース＞

- ・主な進学実績は日本大学・東海大学・国士舘大学・関東学院大学・金沢学院大学・東北福祉大学・清和大学・名古屋商科大学・八戸学院大学などである。
- ・八戸学院大学健康医療学部人間健康学科との連携で、各種実習や特別授業・講師を招いての講義などを行い、八戸学院大学への進学率向上につながった。また、トップアスリートや外部講師による講演会や講習会の実施回数も年々増加している。
- ・広報募集活動も兼ねて中学校での出前授業・障害者スポーツボランティアなども実施した。
- ・社会貢献分野では、地域プロチームとの交流会や各種イベントスタッフなど多岐にわたる協力要請が増えてきており、生徒の評価やスポーツ科学コースの知名度もかなり向上してきた。

②保育福祉科

ア 高大連携の 5 か年教育（八戸学院大学短期大学部への進学率向上を図る。）

- ・美保野キャンパス見学会を年 2 回実施した。（1 年次～3 年次）
- ・1 年次に三者面談を開始し系列上級学校の特典をアピールするとともにオープンキャンパスへの参加を促した。
- ・系列幼稚園の各行事（運動会・芋ほり会・クリスマス会）にボランティアとして参加した。
- ・星の子シアターやオペレッタへの参加と鑑賞を行った。
- ・八戸学院大学短期大学部介護福祉学科の事例研究発表会を聴講し、進学に対する意欲増進につなげた。
- ・系列校進学者は約 59.1%（26 名／44 名中）である。

イ 広報募集活動（科の特色や魅力を発信し生徒募集につなげる）

- ・保育・介護に関する動画を制作し、オープンスクールで紹介、保育士、介護福祉士の社会における必要性和魅力を発信した。
- ・オープンスクールを見学型から体験型にリニューアルした。
- ・保育福祉科独自の SNS アカウントを作成し日々の活動を更新した。
- ・地域貢献として保育福祉科で八戸市クリーンパートナーに登録し、湊高台地区清掃活動を実施した。
- ・各種ポスター・標語コンクールに応募し 4 名の生徒が入賞した。

3) 財政基盤の強化

①法人内大学への進学

【法人内大学への進学者数】

大学名	学部・学科	令和 7 年度	令和 8 年度
八戸学院大学	地域経営学部 地域経営学科	6 名	16 名
	健康医療学部 人間健康学科	15 名	11 名
	健康医療学部 看護学科	6 名	13 名
八戸学院大学 短期大学部	幼児保育学科	22 名	23 名
	介護福祉学科	7 名	3 名
合 計		56 名	66 名

※ 3 年次生の 27.2%が系列大学、短期大学部に進学（過去 5 年では最高値）

②退学防止策

今年度は 15 名（転出 9 名・退学 6 名）の生徒が転退学したが、転入生が 1 名いることから、全体の在籍としては 14 名の減となっている。不登校傾向にある入学者数は増える一方で、それらの対応が今後の大きな学校課題である。対応策の一つとして今年度より科体制から年次体制

に変え学校が運営されている。科の垣根をなくしてより多くの教員が生徒へ関わることによって相談体制に厚みが増し問題行動なども減少しつつある。養護教諭を複数配置したことも相まって昨年度よりも集団不適應の生徒数は減少している。また、4月からは通信制課程への転籍も問題解決の一つになることから受け入れ態勢はかなり整うと思われる。今後の学校経営を占う点ではこのような体制作りが必要不可欠である。

(7) 八戸学院野辺地西高等学校

1) 重点目標

本校のスクールポリシー（生徒育成方針）に重点を置き、教育活動を推進していく。

- ①命や人権を尊重し、他者を思いやる心の育成
- ②規律とマナーを身につけ、人と関わる豊かなコミュニケーション能力の育成
- ③主体性をもって自ら課題を発見し、その解決に向かって考え、行動する力の育成
- ④多面的・多角的な見方や考え方を身につけ、グローバルな視点から社会へ関わる力の育成

2) 学科・各系列の事業報告

①総合学科

個々の生徒の特長を活かし、一人一人に応じたきめ細かな学びの実践により生徒の進路実現を図る。

- ・早期に進路決定に向けた取り組みを開始したことで、計画的かつ効果的な進路指導が可能となった。特に四年制大学を希望する生徒には、個々の受験スタイルに応じた指導を行い、公立大学合格をはじめ、希望どおりの進路実現を図ることができた。

〔進学者 31 名〕 私立大学 19 名、国公立大学 1 名、短期大学 4 名、専門学校 7 名

〔就職者 10 名〕 県外 3 名、県内 6 名、公務員 1 名

学校行事や課外活動の充実により生徒の自己有用感を育み、生徒の主体的な取り組みを生かす魅力ある学校づくりに努める。

- ・12月15日（月）、本校において学習発表会を実施した。3年次生が「総合的な探究の時間」で取り組んだ学習成果について、パワーポイントを用いて全校生徒の前で発表した。各発表では、調査内容や考察が分かりやすくまとめられており、生徒一人ひとりがこれまでの学びを振り返りながら堂々と発表する姿が見られた。
- ・魅力ある学校づくりを目指し、地域とのつながりを活かした各種の取り組みを実施した。
 - 6月3日（火） 野辺地ロータリークラブとの花植えによる環境美化活動
 - 7月6日（日） イオンモール下田30周年記念企画として合同学園祭への参加
 - 8月18日（月） 野辺地警察署にて、代表生徒による1日警察署長
 - 8月24日（日） 全校生徒による「のへじ祇園祭り」への参加（24年目）
 - 12月1日（月） 野辺地町ふるさと学習（郷土理解事業）への1年次生全員参加
- ・野辺地町人材育成事業「競技スポーツ強化支援」では、東北大会や全国大会へ出場する運動部に対し補助金の支援を受けた。また、「学力向上支援」では、有名私大塾講師による「高校生短期講座」（年2回開催）に参加し、学力向上に取り組んだ。
- ・課外活動では、サッカー部と空手道部がインターハイ出場を果たした。特にサッカー部は、青森山田高等学校の県高校総体25連覇を阻止し、見事初優勝を飾った。

発達支持的生徒指導を実践し、生徒に寄り添い、他機関やご家庭との連携を一層高めるとともに、問題が発生しない学校づくりに取り組む。

- ・野辺地町教育総合会議を通して、町教育委員会、警察署、保健所、小中学校との連携を図り、情報を共有しながら地域とともに生徒の健全育成に取り組んだ。
- ・日常的な細やかな保護者連絡に加え、連続欠席が3日となった場合には家庭訪問を行う取り組みを継続し、さらに年5回実施した「学校生活アンケート」により問題の早期発見に努めた。
- ・生徒会主催の「いじめ撲滅標語コンテスト」において、全校生徒が標語を考えることで、いじめ問題への意識を高めた。
- ・生徒指導研修を3回実施した。特に、令和6年度に改訂された「いじめ重大事態の調査に関するガイドライン」については、教職員間で共通理解を深めるため、今年度も研修を行った。

- 4月9日（水） 「本校の学校いじめ防止基本方針について」
 5月15日（木） 「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン改訂」
 文部科学省（オンライン説明）
 12月18日（木） 「いじめの重大事態時の組織的対応と事例」

ICT教育推進等、時代が求める教員のスキル向上のため、教員研修の充実を図る。

- ・7回の教員研修を実施し教員のスキル向上を図った。内容は以下のとおりである。

- 4月28日（月） 「iPadの基礎的な使い方について」
 KDDI ICTサポート統括 井上 寛貴 氏
 5月15日（木） 「iPadの基礎的な使い方について」
 KDDI ICTサポート統括 井上 寛貴 氏
 6月17日（火） 「Classiを連携した活用について」
 ベネッセ青森岩手担当 日野 敦史 氏
 7月25日（金） 「BLEND調査書の入力方法について」
 モチベーションワークス 関 祥子 氏
 9月16日（火） 「BLEND通知表の入力方法について」
 本校教務部長 大沼 暢 氏
 11月18日（火） 「Classiを連携した活用について」
 ベネッセ青森岩手担当 日野 敦史 氏
 12月18日（木） 「各教科指導におけるICT活用」
 本校教務部長 大沼 暢 氏

②教養進学系列

法人内での高大連携を活用し、スポーツ進学系の生徒を対象とした特別授業を実施することでスキルと知識の向上を目指し、スポーツに関わる人材育成を図る。また、八戸学院大学および短期大学部への進学者増加につなげる。

- ・法人内の高大連携講座を活用し、3年次スポーツ進学系26名を対象に3講座を開講した。大学教員による専門的な講義や実技指導を受けることで、生徒はスキルと知識を向上させることができた。

- 8月28日（木） 「誰でも簡単タグラグビー」
 八戸学院大学健康医療学部人間健康学科 准教授 工藤祐太郎 氏
 10月9日（木） 「健康と運動に関して～運動のエネルギー代謝から考える～」
 八戸学院大学健康医療学部人間健康学科 准教授 有光 琢磨 氏
 10月30日（木） 「健康と運動～トレーニング・コンディショニング～」
 八戸学院大学健康医療学部人間健康学科 講師 平塚 和也 氏

救命講習やキッズリーダーなど、体育関係の資格取得の機会を設ける。また、校外実習等を企画し学びの充実を図る。

- ・上級救命講習を6月18日（水）に実施し、3年次スポーツ進学系26名が修了証を取得した。
- ・応急手当講座を、12月3日（水）には1年次生35名、1月27日（火）には2年次生48名を対象に開講し、光星高等学校養護教諭の助川美千子先生を講師として招いた。

オンライン英会話レッスンの受講希望者を募り、英語力の向上と実用英語技能検定等の合格者増加を目指す。また、活動実績として推薦入試等で活かせるように指導する。

- ・オンライン英会話レッスンには、計11名（3年次生8名・2年次生3名）が参加し、週1回のレッスンを継続して受講した。生徒は英語力向上を目標に、集中して取り組むことができた。
- ・レッスンを受講した3年次生8名全員が、青森公立大学をはじめとする希望大学への進学を決め、活動実績として活かすことができた。

小論文や共通テスト対策に向けた模試を複数回実施し、4年制大学の合格者増加を図る。

- ・ベネッセの基礎小論文模試を、2・3年次生の希望者を対象に実施した。第1回は7月22日（火）に3年次生5名が受験し、第2回は3月10日（火）に実施し、2年次生6名が受験した。
- ・大学入学共通テスト模試については、部活動の遠征等と日程が重なったため実施できなかった。そのため、大学入学共通テストの出願者に対しては個別指導を行った。

各種検定対策の強化を図り検定合格者を増加させることで、進路決定が有利になるように指導する。

- ・実用英語技能検定では、準2級に3名が合格した。日本漢字能力検定や実用数学技能検定については、受検希望者がいなかったため実施には至らなかった。次年度は、受検者および合格者の増加に向け各教科担当者や部活動顧問と連携し、対策を検討していきたい。

③保育福祉系列

家庭科保育技術検定の受験者増・合格者増を目指す。

- ・保育福祉系列の生徒数減少に伴う開講科目の縮小により、全種目の検定を実施できず、合格者を出すことができなかった。理解の確認や学びの深化を目的として、前期（7月）に種目別で検定に臨んだ。合格者は以下のとおりである。

〔造形表現技術〕 3級1名、2級6名、準1級1名、1級1名

〔言語表現技術〕 3級1名、2級8名

〔家庭看護技術〕 2級5名

ピアノ演奏発表会を開催し、保育福祉系列の3年間の集大成として成功させる。

- ・1月21日（水）にピアノ演奏発表会を開催した。保育福祉系列3年次生が演奏を行い、教養進学系列と保育福祉系列の2年次生が鑑賞した。また、発表会場には3年次生が制作した作品を展示し、三年間の学びの成果を披露することができた。

特別授業・講座等を開催し、社会福祉への興味関心を高め福祉を志す心を養い、法人内上級学校への進学を促す。

- ・福祉の仕事あれこれ出前講座は、11月21日（金）に開催予定であったが、講師の都合により来校が困難となり中止した。
- ・認知症サポーター養成講座は、12月12日（金）に野辺地町地域包括支援センター職員を講師に招いて開催し、17名の生徒が認知症サポーターとして認定された。
- ・1月13日（火）には高大連携事業として、八戸学院大学短期大学部介護福祉学科の高橋英成先生を講師に招き、レクリエーションを活用したコミュニケーション術の講義を開講した。福祉の学びを深めるとともに、八戸学院大学短期大学部への興味、関心につなげることができた。

地域連携事業として野辺地町教育委員会・野辺地町社会福祉協議会・野辺地ロータリークラブと協同し、生徒のボランティア活動を推進する。

- ・5月24日（土）に弘前市でインターアクトクラブ年次大会が開催され、これまでの活動報告をパワーポイントで発表した。他校の活動内容を知る機会ともなり、生徒にとって大きな学びとなった。
- ・ボランティア活動については、学校行事や部活動の大会日程と重なることが多く、参加者を募ることが難しかった。今後も生徒のボランティア活動を推進するため、周知の方法を工夫していきたい。

④産業技術系列

3級自動車整備士、二輪自動車整備士の国家資格取得を目指す。

- ・今年度は、3級自動車整備士（ガソリン）試験に1名が受験し合格した。

資格取得を推進し、特にガス溶接技能講習修了証、危険物取扱責任者、有機溶剤作業主任者の取得を目指す。

- ・ガス溶接技能講習については、産業技術系列の2・3年次生がすでに全員受講済みであるため、今年度は産業技術系列以外の生徒が受講し、1名が修了証を取得した。また、危険物取扱責任者試験についても、産業技術系列以外の生徒が1名合格しており、総合学科の利点を生かした資格取得となった。

自動車整備工場の見学会を企画し、キャリア教育を推進する。

- ・自動車整備工場での見学会は実施できなかったものの、インターンシップの機会を活用し、産業技術系列2年次生が上北地区の自動車整備工場において整備作業を体験することができた。

3) 財政基盤の強化

①法人内大学への進学

進学者31名中10名（32%）が法人内大学へ進学となった。

大学・短大名	学部・学科	令和7年度	令和8年度
八戸学院大学	地域経営学部 地域経営学科	7名	3名
	健康医療学部 人間健康学科	2名	3名
	看護学科	2名	0名
八戸学院大学短期大学部	幼児保育学科	1名	0名
	介護福祉学科	1名	4名
合 計		13名	10名

②退学防止策

令和7年度の退学者数は4名であり、前年度比+1名となった。1年次生2名の退学理由は、いずれも学校寮内での問題行動によるものである。この問題については、寮運営委員会において未然防止策を協議し、寮生活の在り方や生活環境の改善を進めるなど、より良い寮生活の実現に向けた取り組みを進めている。2年次生2名の退学理由は、いずれも家庭事情に伴う進路変更であり、本人よりも保護者の意向が強かった。学校としては、保護者と複数回にわたり相談を重ねたものの、最終的には退学という結論に至った。今後も全教職員で情報を共有し、組織的な対応を徹底するとともに、保護者と連携しながら生徒一人ひとりに寄り添い、豊かで楽しい学校づくりを推進していく。

(8) 八戸学院幼稚園

1) 重点目標

- ①法人内学校との連携による教育内容の充実
- ②業務の効率化
- ③子育て支援活動の推進
- ④園内交流の活性化

2) 事業報告

①法人内学校との連携による教育内容の充実

法人内大学・短大の教員による園児の指導、職員研修、研究が以下の通り活発に行われた。また、行事「星の子シアター」では年長児と短大生と一緒に舞台を作り上げた。短大生、高校生によるボランティアも行われた。

・リトミック 年間10回

指導 八戸学院大学短期大学部 名誉教授 附田 勢津子、准教授 中嶋 栄子、
講師 橋本 知子、講師 坂本利枝子、
非常勤講師 松坂真奈美

・造形教室 年間7回 指導 八戸学院大学短期大学部 講師 渡邊 雄介

・英語教室 年間8回 指導 八戸学院大学 教授 G. アンソニー

・教育講座 「自分のからだを大切にしよう！親子で学ぼう性教育」(10/23)

講師 八戸学院大学 別科助産専攻科長 高橋 雪子
対象 園児ならびに保護者

・職員研修 「子どもの絵に関してのお話、子どもの姿や意欲に添った指導法」(1/7)

講師 八戸学院大学短期大学部 講師 渡邊 雄介
対象 八戸学院3幼稚園教職員(参加者17名)

・研究

体力測定 八戸学院大学短期大学部 講師 本吉 好

ゼミナール活動 八戸学院大学短期大学部 差波ゼミナール 遊びの広場「ワンパーク」

総合学習 八戸学院光星高等学校保育福祉科生徒 保護者に対するアンケート調査

・行事 「星の子シアター」への出演

・学生ボランティア

入園式 吹奏楽演奏 八戸学院光星高等学校 吹奏楽部

運動会 八戸学院大学短期大学部 幼児保育学科 10名

八戸学院光星高等学校 保育福祉科 8名

星の子祭 遊びの広場体験	八戸学院大学短期大学部	差波ゼミナール
チアリーディング演技	八戸学院光星高等学校	チアリーディング部
体験学習 サツマイモ収穫	八戸学院光星高等学校	保育福祉科
クリスマス発表会	八戸学院大学短期大学部 幼児保育学科	2名
	八戸学院光星高等学校 保育福祉科	3名

②業務の効率化

・行事の運営の見直し

令和7年度はお泊まり会の復活等、行事の見直しを行ったが、運営の効率化としては、お知らせや参加の取りまとめにおがへるシステムを活用する以上の特段の実績はなかった。

・ICT環境の整備

新規にWi-Fi環境を整えたことで、リモートによるキャリアアップ研修受講など、業務の効率化が図られた。

・パソコンの利用促進

ホームページ用のトピックス作成と配信に注力し、実績としては各クラスのトピックスが104件、園全体のものが44件、園長だよりが4件でそのほか未就園児教室に関わるものが20件となっている。

・おがへるシステムの活用促進

学校評価に係る保護者ならびに教職員に対するアンケート、長期休暇時における利用調査および各種お知らせメールのほかに園だより、ドキュメンテーション、行事予定表、給食献立表などの配信をしている。なお、保護者アンケートではおがスマによる欠席連絡の要望があったが、学校評価委員との意見交換も踏まえて、従来通り電話での連絡をお願いすることとした。また、バス利用者への感染状況のお知らせについては、降園時のバスに添乗した職員が保護者に口頭で伝えることとした。

③子育て支援活動の推進

子育て支援活動を以下の通り実施した。ステラクラスの参加人数は前年より減少したが、チッチクラスについては増加が見られた。

- ・未就園児教室

ステラクラス	実施回数18回	参加延べ人数197名
チッチクラス	実施回数18回	参加延べ人数163名
- ・園庭開放「星の子広場」

実施回数	1回	参加延べ人数	1名
------	----	--------	----
- ・見学・入園説明会「星の子オープンスクール」

定 期	入園説明会（10/7実施）	8家族参加
随 時	見学・説明	12家族
その他	資料請求	25件
- ・一時預かり「星の子サポート」

利用延べ人数	202名
--------	------

④園内交流の活性化

重点目標として園内交流（クラス間・学年間交流）を挙げ、毎月の職員会議で実績や状況の報告を求めた。クラス間交流としては、年長お泊まり会をクラス混合のグループ編成で行う、クラス合同で給食を食べたり運動会やお遊戯の練習をしたりする、クラスの担任を交代する、園庭で合同の朝の会を行う、クラス混合でお買い物ごっこを行う等の報告があった。学年によって程度の差はあっても、クラス間交流は無理なく展開されている様子であった。学年間交流としては、特定の活動を合同で行った実績はなかったが、園外に出る際に年長が年下の子とペアになって面倒を見たり、お買い物ごっこで他学年の子どもがお客になったり、他学年の運動会やお遊戯の練習を見学したりといった交流があり、その結果、預かり保育の時間に大きい子が小さい子の面倒を見たり遊んでくれたりする姿が増えたという報告があった。

（9）八戸学院聖アンナ幼稚園

1) 重点目標

- ①モンテッソーリ教育の充実
- ②子どもの育ちに合った運動環境への取り組み
- ③地域との連携

2) 事業報告

①モンテッソーリ教育の充実

・一人ひとりの子どもに適した教育、保育の実践

園児一人ひとりの成長に重点を置き、個々人の成長に適した丁寧な関わりに努めた。その結果、遊びに集中して取り組む姿に、園児の成長が感じられた。

・法人内上級学校との連携による教育活動の実践

英語の教育活動を八戸学院大学と連携して行った。

音楽、造形の教育活動を八戸学院大学短期大学部と連携して行った。

八戸学院大学短期大学部と連携し「子どもが育むべき基本動作」の研究に取り組んだ。

保護者および園児に対する性教育(人権教育)を八戸学院大学と連携して行った。

年間を通して法人内各教育施設および各部署との連携で諸行事を円滑に行うことができた。

・自然体験、実体験の充実

日々の保育において外遊びの充実に努めた。

実際の店舗での買い物体験や電車を利用する体験を取り入れた園外保育を実施した。

季節ごとに自然を感じる行事および伝統文化に触れる行事を実施した。

春：お花見、園庭で種蒔き、自然農法「種ばくだん作り」

夏：新井田公園散策、舘鼻公園散策、種差海岸散策

秋：リンゴ狩り、園庭の作物収穫、料理会

冬：餅つき、鏡餅づくり、そり滑り、豆まき、雛祭り

・教職員の資質向上

私立幼稚園連合会主催の全国、東北、県内、市内の各種研修会に多数参加した。

他園のECEQ公開保育に4名が参加した。

日常の保育活動における課題を共有、検証する園内研修を年間6回開催した。

②子どもの育ちに合った運動環境への取り組み

・子どもが育むべき基本動作を踏まえた環境づくり

八戸学院大学短期大学部幼児保育学科と連携し、園児の活動状況の調査に基づき運動環境を整備した。子どもたちが楽しみながら腕を使った動きを促進することを目的とし、さらに子どもたちのアイディアを継続的に取り入れていけるような「やぐら」を園庭に設置した。また、腕を使った動きを楽しみながら体験できる環境として「スクラックライン」、「ぶら下がりロープ」などの遊具を園庭に設置した。

・子どもの運動環境に関する研究

園児の活動の調査には、一定期間定点カメラで園庭およびホールでの子どもたちの様子を撮影、集計、分析をした。その結果上記の環境整備に取り組んだが、今後はそれらを検証するデータを収集し続け、さらにより良い環境を整えていく予定である。

③地域との連携

・幼小連携の推進

八戸市立柏崎小学校との相互参観および児童と園児の交流が企画され、情報交換・意見交換の場が増えたことで、連携を深めることができた。また、同校と審議を重ね架け橋プログラムを完成させた。

学校関係者評価委員会に八戸市立柏崎小学校校長にも参加いただき、保育参観および情報交換・意見交換を通して、相互理解を深めることができた。

・はじめの100ヶ月(妊娠期から幼児期まで)への支援活動

JABC認定ベビーマッサージインストラクター等の資格保持者を招聘し「マタニティサロン」および「ベビーマッサージクラス」を地域に向けて年3回ずつ開催した。

・地域に根差した教育、保育活動への取り組み

一般財団法人言語交流研究所・ヒッポファミリークラブとの共催で、地域に向けて年3回「親子でわくわく多言語広場」を開催した。

0歳からの未就園児親子を対象に「めだか学級」を年9回開催し、乳幼児期の子どもの成長に適った環境を提供するとともに、保護者の子育て相談にも応じた。

(10) 八戸学院第二しののめ幼稚園

1) 重点目標

- ①教育内容の充実
- ②教職員の資質と専門性の向上を図る
- ③保護者・地域との連携を深める
- ④教育環境の整備

2) 事業報告

①教育内容の充実

- ・法人内上級学校との連携を深め、保育・教育内容の充実を図る。

＜実習の受け入れ＞

八戸学院大学健康医療学部看護学科 看護実習

八戸学院大学短期大学部幼児保育学科 教育実習

八戸学院光星高等学校保育福祉科保育コース 保育実習

＜その他の連携＞

星の子シアター（短期大学部幼児保育学科と系列3幼稚園の連携行事）の参加

英語教室 年間8回 指導：八戸学院大学 教授 G. アンソニー

造形教室 年間6回 指導：八戸学院大学短期大学部 講師 渡邊 雄介

リトミック 年間10回 指導：八戸学院大学短期大学部 准教授 中嶋 栄子
講師 坂本利枝子、非常勤講師 松坂真奈美

運動遊び 年間6回 指導：八戸学院大学短期大学部 教授 澤井 睦美

音楽教室 年間10回 指導：八戸学院大学短期大学部 名誉教授 附田勢津子

サッカー教室 年間15回 指導：八戸学院大学サッカー部

八戸学院大学、八戸学院大学短期大学部ゼミ生の訪問

行事における学生ボランティアの参加

- ・行事を通じた体験学習、自然と人との関わりを大切にしたい体験学習の充実を図る。

＜行事を通じた体験学習＞

5月 園外保育・交通安全教室（八戸公園こどもの国）

6月 親子スポーツフェスティバル

7月 ブルーベリー狩り（南郷・根岸ファーム）、ボディペインティング

8月 三社大祭山車見学（株式会社川端重機興業さん前で新井田山車組の山車とお囃子見学）

9月 八戸市水産科学館マリエントで海の生き物に触れる（年少児）

八戸市視聴覚センター児童科学館でプラネタリウム鑑賞（年中児）

秋まつり&バザー

11月 勤労感謝の日の訪問 業務班・園バス運転士（年中児）

近隣の株式会社川端重機興業さん（年長児）

＜園の畑で野菜を育てる＞

苗植え、じゃがいもと枝豆の収穫、さつまいもの収穫・試食・焼きいも会

各クラスでトマト、ピーマン、オクラなどの野菜を栽培し、収穫後調理して食した。

＜季節の遊びや行事＞

もちつき会・餅花作り、種差少年自然の家でのスノーチューブ体験、豆まき、ひなまつり

＜その他＞

うさぎのみみちゃんと亀のみらいちゃん、熱帯魚の飼育を通じて生き物に親しみを持って命の大切さに気付くことや生き物への興味関心を育み、子ども同士の関係も深めることができた。

- ・小学校との連携・接続プログラムを充実させ、計画的に実施する。

幼保小連携プログラムの作成にあたって、旭ヶ丘小学校と連携し、作成に着手した。

支援の必要な園児について、個別に情報共有を行った。

卒園後の就学予定先の小学校に年長クラスの参観日の案内を出し、幼稚園での子どもの様子を参観していただき、その後の懇談会で情報共有を行う。

②教職員の資質と専門性の向上を図る

・研修への参加、園内研修の充実を図る。

年間で17の研修会に参加し、延べ30名が受講することができた。今年度は、各教員の課題や経験に応じた研修を受講することができ、園内研修も6回開催し、幼稚園教諭としての資質向上に努めた。

③保護者・地域との連携を深める

・保護者との連携による活動を充実させる。

親子遠足、秋まつり&バザー、おゆうぎ会など、保護者とともに活動する行事を例年通り行うことができた。

・地域とのつながりを意識した情報発信に努める。

地域の方からお借りしている園舎前の畑で、野菜の栽培をし、苗植えや収穫などの様子をホームページに掲載した。水やりの様子や作物の成長の様子などを頻繁に情報発信した。また、地域にある株式会社川端重機興業さんには昨年に引き続き、三社大祭の新井田山車組の山車とお囃子の見学に招いていただき、勤労感謝の日には年長児が感謝のお花と色紙を持参するなど地域とのつながりを持つことができた。

ポケット広場（未就園児教室）の活動も地域とのつながりを意識してホームページに随時掲載し、情報発信に努めた。

④教育環境の整備

・教室環境の整備（冷房機の設置、電子ピアノの設置等）

今年度は、現状維持にとどまった。電子ピアノの故障のため、きりん組はキーボードを借用中。うさぎ組は、ホールに移動して歌を歌うなどの工夫をしている。今後も購入の予定はない。

・遊具、施設設備の整備

ピアノ調律の他、駐車場の整備など日常的にできることを実施した。園庭の遊具が老朽化しており、修理が必要である。

園庭の砂場の細菌検査を実施した結果、異常はなかった。

2. 法人内教育機関の連携強化

（1）八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部と八戸学院光星高等学校および八戸学院野辺地西高等学校との間に締結した高大連携協定を着実に推進するとともに、スポーツ局などを中核とした新たな活動の展開を図る。

八戸学院大学と八戸学院大学短期大学部では、系列高校の生徒を対象にスポーツを中心とした特別講座や出前授業を実施し、多数の生徒が受講した。

（2）法人内の様々な優れた教育資源を相互活用することで、教育環境の充実を図る。

八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部と3幼稚園では、計画に基づいて音楽（リトミック）、芸術（造形教室）、英語の分野の教室を開催し、密接な交流が図られた。

（3）感染症等の不測の事態が発生した場合は、健康管理局を中心に法人内教育機関の連携のもと、万全の体制を構築して対処する。

健康管理局が中心となってインフルエンザ等の感染症に注視しつつ、各学校と連携して必要に応じて注意喚起を行った。

3. 国際交流の活性化

（1）国際教育局が主体となり、各教育施設における語学研修を中心とした国際交流活動を展開する。

昨年度に引き続き、ノルウェーと中国の高等教育機関とオンライン国際交流プログラムを実施した。また、中国、韓国、タイ王国やEF（エデュケーションファースト）の語学研修説明会を実施し、韓国の海外研修を実施した。

- (2) 八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部においては、提携校との連携を強化しつつ留学生の受け入れ体制の強化を図る。併せて高等学校においても留学生の受け入れに積極的に取り組む。

八戸学院大学では、提携校からの留学生の受け入れがなかった。八戸学院大学短期大学部は、仙台育英学園高等学校からインドネシアの留学生、一般財団法人東北多文化アカデミーからネパール、タイ王国からの留学生を受け入れた。

4. 経営基盤の見直しと財政の健全化

- (1) 改正された私立学校法を遵守し、監事を中核として、更なるガバナンスの向上を目指す。

①監事が理事会・評議員会に出席し、終了後に監事会（議案の審議手順、運営方法および理事の業務執行状況等）の実施状況は、次のとおりである。

回数	月日	監事会の内容
第1回	5月16日（金）	令和6年度 監事監査報告書等の報告 令和7年度 監事監査計画書等の策定
第2回	5月23日（金）	議案の審議手順、運営方法、理事の業務執行状況を確認 監事、法人執行部および監査室との情報交換
第3回	6月10日（火）	理事会の議案の審議手順、運営方法、理事の業務執行状況を確認 監事、法人執行部および監査室との情報交換
第4回	9月19日（金）	評議員会の審議手順、運営方法を確認 監事、法人執行部および監査室との情報交換 (1) 旧五戸高校への移転に関する報告について
第5回	9月19日（金）	理事会の議案の審議手順、運営方法、理事の業務執行状況を確認 監事・法人執行部および監査室との情報交換 (1) 理事会における評議員会の報告について
第6回	11月14日（金）	評議員会の議案の審議手順、運営方法を確認 監事、法人執行部および監査室との情報交換 (1) 補正予算の会議での説明の工夫について
第7回	11月21日（金）	理事会の議案の審議手順、運営方法、理事の業務執行状況を確認 監事、法人執行部および監査室との情報交換 (1) ひばり野西高校の寮建設に係る業者選定について
第8回	2月20日（金）	理事会の議案の審議手順、運営方法、理事の業務執行状況を確認 監事、法人執行部および監査室との情報交換 (1) 看護学科の学生募集について (2) 学校法人監事研修会実施概要について (3) 令和7年度の提言の作成について
第9回	3月13日（金）	評議員会の議案の審議手順、運営方法を確認 監事、法人執行部および監査室との情報交換 (1) 上程議案に係る議決人数の議事録への正確な記載について (2) 令和8年度予算書の評議員への説明について
第10回	3月19日（木）	理事会の議案の審議手順、運営方法、理事の業務執行状況を確認 監事、法人執行部および監査室との情報交換 (1) 当初予算の会議での説明について (2) 令和8年度第1回監事会の日程調整等について

②監事による令和7年度監事監査（監事、事務局長および監査室員による監事監査）の実施状況は、次のとおりである。

回数	月日	監事監査の内容
第1回	9月19日（金）	1. 就業規則改正に伴う変更届出状況について 2. 計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表）、財産目録の情報の公表について 3. 偶発債務当該事項の有無について 4. 令和6年度公認会計士による監査の報告事項 5. その他
第2回	11月21日（金）	1. 寄附行為変更後の運営について、行政からの指導への対応状況 2. 事業計画（中長期を含む）執行・進捗状況について 3. その他

第3回	2月20日（金）	1. 教育研究活動と経営方針との整合性 2. ハラスメントの発生の有無の状況について 3. 固定資産、施工等に関する契約関係書類の適正について 4. その他
第4回	3月19日（木）	1. 固定資産等の管理について 2. その他

③令和7年度における会計監査人、監事、法人執行部および監査室との情報交換会の実施状況は次のとおりである。

回	実施日	情報交換の内容
第1回	5月16日（金）	1. 会計監査人による令和6年度会計（期末）監査の実施状況 2. 会計監査人、監事、法人執行部および監査室との情報交換
第2回	12月19日（金）	1. 会計監査人による令和7年度会計（期中）監査の実施状況 2. 会計監査人、監事、法人執行部および監査室との情報交換 (1) 私学法改正による会計上の変更および学校会計基準の改訂による変更

④監事・監査室の情報共有等

令和7年度は、監事会を10回開催し、監事、事務局長および監査室員が種々の情報を共有して、理事会等の会議運営の適切性の確認および情報交換を行い、法人運営に関する認識を深めた。

（2）中期計画に基づき各種施策を着実に推進するとともに、引き続き不採算施設の再構築等に取り組み経営効率の改善を目指す。

総合戦略室を立ち上げ、各種施策の実行状況等を確認するとともに、法人内各学校の定員充足率などを基に今後の改組改編計画の検討を進めた。

（3）少子化等の影響により、今後も学納金収入の伸びは厳しい状況が見込まれることから、八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部の経常費特別補助金の確実な獲得を目指す。

昨年度に引き続き、八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部に対して日本私立学校振興・共済事業団から高等教育修学支援新制度による授業料等減免費が交付された。特別補助金としては「私立大学等改革総合支援事業タイプ1：『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開」を獲得したほか、八戸学院大学短期大学部では、私立大学等経常費補助金に係る「少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援」が継続採用となった。

（4）施設整備において、光星学院イノベーションプログラム（基金）を活用した取り組みを積極的に推進する。

寄付金については、施設整備・教育支援等に今年度も多大な支援を受けることができた。今後も更なる獲得に向けて周知と協力を図っていく。

5. 業務改善への継続的な取り組み

（1）事務職員の能力開発の推進と事務処理の効率化

SD研修会を定期的に開催したほか、令和3年度に監査室で実施した「事務の効率化を目的としたアンケート」の結果を基に、継続して改善に努めた。

（2）FD・SD活動を積極的に展開

【FD活動】

活動	開催日	内容
1) FD研修会	10月30日（木）	「学生は授業に対して何を感じているか～学生の評価コメントから考える授業改善～」 <講師> 東北大学 災害科学国際研究所 災害人文社会研究部門 邑本 俊亮 教授

2) 授業アンケート	【春学期】 6月30日（月）～7月28日（月） 【秋学期】 12月1日（月）～2月3日（火）	1科目以上の授業評価を受け、評価の集計及び学生の要望を踏まえ、教員からの改善事項等のコメントを付け加える。
3) 公開授業・授業参観	9月19日（金）2時限目 「看護過程論」 10月2日（木）3時限目 「保育の文章表現Ⅰ」 10月6日（月）3時限目 「社会福祉の原理と政策Ⅱ」 10月21日（火）4時限目 「国際関係論」 10月28日（火）3時限目 「こころとからだのしくみⅢ」	各学科から選出された教員の授業を公開した。
4) 外部研修	6月13日（金）	第33回FDネットワーク“つばさ” FD協議会 ※Zoomによるオンラインで参加
5) 授業支援システム 「はちキャンWEB (Web Class)」研修会	4月3日（木）	新任教員向けに、授業支援システム研修を実施した。

【SD活動】

種別	研修会等		
	開催日	対象	内容
教職員 SD研修	4月1日（火）	教職員	「令和7年度の運営方針について」 「中期計画についてー令和7年度の取り組みー」 「財務状況について」
職員 SD研修	8月8日（金）	事務職員	「ストレスへの気づきと対処のための基礎知識講座」 ＜分科会①＞事務職員対象 「デジタル変革（DX）時代における職員のための情報リテラシー」 ＜分科会②＞技術職員対象 「運転適性検査の結果を踏まえて」

（3）関係法令の理解や意識改革を促進する教職員研修を継続して実施

1) 八戸学院大学等における教育に関する研修について

大学および短期大学部ではFD委員会の企画による研修会を実施し、教育の質の向上に寄与した。

2) 法人内幼稚園教員研修について

3幼稚園の教員を対象として、1月7日（水）に「美術における「見方・感じ方」を考える～認知、美的発達に基づく造形指導へのヒント～」について研修会を行い、知識を向上させた。

3) 学校法人光星学院事務職員研修について

8月8日（金）に事務職員ならびに技術職員を対象として研修会を開催し、職員の意識向上を図った。

4) その他

会計監査人による会計監査が、5月16日（金）・19日（月）、12月18日（木）・19日（金）に実施された。

（4）規程の制定・改正・廃止状況

令和7年度における諸規程の制定・改正・廃止状況（理事会・法人運営会議承認）は次のとおりである。

No.	規 程 等 の 名 称	制定	改正	廃止	法人運営会議	理 事 会	施行年月日
1	八戸学院健康・スポーツ科学研究所規程	○			7. 4. 14	—	7. 4. 14
2	学校法人光星学院役員等の報酬に関する規程		○		7. 5. 9	7. 5. 23	7. 6. 20
3	学校法人光星学院イノベーションプログラム（基金）研究等補助金交付申請に係る公募要項		○		7. 6. 6	—	7. 6. 6
4	学校法人光星学院イノベーションプログラム（基金）外国留学等補助金交付申請に係る公募要項		○		7. 6. 6	—	7. 6. 6
5	八戸学院図書館規程		○		7. 6. 6	—	7. 6. 6
6	八戸学院野辺地西高等学校えぼし寮管理運営規程施行細則		○		7. 6. 6	—	8. 4. 1
7	学校法人光星学院寄附行為（学部学科名称変更）		○		7. 9. 5	7. 9. 19	8. 4. 1
8	学校法人光星学院寄附行為（議事録署名人）		○		7. 9. 5	7. 9. 19	8. 4. 1
9	八戸学院大学学則		○		7. 9. 5	7. 9. 19	8. 4. 1
10	八戸学院大学短期大学部学則		○		7. 9. 5	7. 9. 19	8. 4. 1
11	学校法人光星学院寄附行為（通信制課程）		○		7. 9. 5	7. 9. 19	8. 4. 1
12	八戸学院光星高等学校学則（通信制課程）		○		7. 9. 5	7. 9. 19	8. 4. 1
13	八戸学院聖アンナ幼稚園園則（運営規程）		○		7. 9. 5	7. 9. 19	8. 4. 1
14	八戸学院第二ののめ幼稚園園則（運営規程）		○		7. 9. 5	7. 9. 19	8. 4. 1
15	学校法人光星学院パートタイマー規程		○		7. 10. 10	—	7. 11. 21
16	学校法人光星学院育児休業等に関する規程		○		7. 10. 10	—	7. 10. 10
17	八戸学院光星高等学校学則（通信制課程：区域）		○		7. 11. 7	7. 11. 21	8. 4. 1
18	八戸学院ひばり野西高等学校学則		○		7. 11. 7	7. 11. 21	9. 4. 1
19	学校法人光星学院公印取扱規程		○		8. 2. 6	—	8. 4. 1
20	学校法人光星学院固定資産および物品管理規程		○		8. 2. 6	—	8. 4. 1
21	八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部における修業年限を超えて在学する者の学費納入規程		○		8. 2. 6	—	8. 4. 1
22	学校法人光星学院育英・奨学規程		○		8. 2. 6	8. 2. 20	8. 4. 1
23	学校法人光星学院運営組織事務分掌細則		○		8. 3. 6	—	8. 4. 1
24	学校法人光星学院国際教育局規程			○	8. 3. 6	—	—
25	八戸学院光星高等学校特別奨学生規程		○		8. 3. 6	—	8. 4. 1
26	八戸学院野辺地西高等学校特別奨学生規程		○		8. 3. 6	—	8. 4. 1
27	学校法人光星学院処遇改善等手当施行細則		○		8. 3. 6	—	8. 4. 1
28	八戸学院幼稚園における教育・保育費用取扱要領		○		8. 3. 6	—	8. 4. 1
29	八戸学院聖アンナ幼稚園における教育・保育費用取扱要領		○		8. 3. 6	—	8. 4. 1
30	八戸学院第二ののめ幼稚園における教育・保育費用取扱要領		○		8. 3. 6	—	8. 4. 1
31	学校法人光星学院寄附行為（理事の選任）		○		8. 3. 6	8. 3. 19	8. 6. 26
32	学校法人光星学院運営組織規程		○		8. 3. 6	8. 3. 19	8. 4. 1
33	学校法人光星学院寄附行為（八戸学院野辺地西高等学校普通科）		○		8. 3. 6	8. 3. 19	9. 4. 1
34	八戸学院ひばり野西高等学校学則（授業料）		○		8. 3. 6	8. 3. 19	9. 4. 1
35	八戸学院光星高等学校学則（授業料）		○		8. 3. 6	8. 3. 19	8. 4. 1
36	八戸学院野辺地西高等学校学則（授業料）		○		8. 3. 6	8. 3. 19	8. 4. 1
37	学校法人光星学院就業規則		○		8. 3. 6	8. 3. 19	8. 4. 1

6. 情報教育環境整備の推進

当法人の情報教育環境の整備は、情報システム委員会並びに財務部情報システム室によって担われている。その具体的な分掌は、令和7年度計画として掲げた課題即ち、①情報系システムの運用、②利用者環境整備、③情報システム並びに情報セキュリティに係る組織体制再編の構想及び取り組み、④基幹業務システムの運用、⑤ネットワークシステムの運用、⑥将来的発展に備え継続的に検討および情報収集すべき案件、などである。各項目の観点を踏まえ2025年度末時点での情報システム環境の状況について、以下に総括する。

(1) 情報システムに係る物理的環境整備

平成 24 年度よりはじめた情報システムに係る物理的環境の全面的な見直しは、平成 28 年度に一応の完成をみた。平成 30 年度には、美保野キャンパスの学生の利便性向上および利用者増加に伴う慢性的なインターネット通信回線の圧迫回避を目的とし、新たに学生用無線 LAN ネットワークを構築。同じく平成 30 年度に、八戸学院光星高等学校における教育 ICT の利活用を目的とした校内無線 LAN を一部の教室に整備。令和 3 年度は、八戸学院大学短期大学部介護福祉学科の利用校舎移転に伴い、美保野キャンパス 9 号館の無線 LAN を整備。そして令和 5 年度～令和 6 年度年度にかけて、八戸学院光星高等学校の校内無線 LAN の提供エリアを拡充した。ネットワークとシステム両面の運用管理、適切なアップデートを行っていく。

(2) 情報システム環境の利活用促進

組織内ユーザがシステム環境を最大限活用し組織の生産性および組織力の向上を克ちとることができるように、かねてよりの懸案である組織内 IT リテラシー向上に資する取り組みがますます重要になっている。とは言え、とりわけグループウェアをはじめとする情報系システムを如何に利活用するかについての取り組みはまだ十分とは言えない。他方で、グループウェア Cybozu Garoon のオプションサービスである Cybozu Kintone を具体的な業務に適用する作業は大きく進展しつつある。特に大学短大事務部各課および財務部会計課において、グループウェアを業務改善に積極的に活用しようとする意識の高まりとともに、現場部門自身による複数の具体的な取り組みが展開され、既に幾つもの成果を上げている。このような現場部門の主体性の発露は、情報システム部門の人的リソースの制約という条件を乗り越えつつある。人員体制の改善を求めながらも現体制でできることをさらに進めていくことが継続的な課題となる。

(3) 情報セキュリティに係る課題

昨年度も述べたように、依然として昨今の情報セキュリティをめぐる環境は油断ならない状況にあると言える。幸いにも近年、我々は情報セキュリティに係る被害を受けていないものの、過去にはランサムウェア感染によるデータ消失、個人 SNS アカウントの乗っ取り、内部情報流出が契機となっていることが強く疑われる WEB ページの改竄、などの事態が発生している。

今年度も引き続き、情報セキュリティの向上に関しては専ら物理的環境の観点から様々なことを実施してきたが、リテラシー・組織・危機管理等の観点では十分とは言えず課題を残している。

他方で文科省からは、学校法人における情報セキュリティ対策の強化を求める通知があり、近い将来そのことを認証評価の項目に盛り込むことなどが予告されている。これらのことはひとり情報システム委員会の範疇を超えるかもしれない。例えば、我が法人には文科省が求めるような情報システム担当理事や情報セキュリティ担当理事が不在である。また、情報セキュリティに係るインシデントが発生した場合の対応組織である CSIRT (Computer Security Incident Response Team : 組織内の情報セキュリティ問題を専門に扱うインシデント対応チーム) も未整備である。

情報システムセキュリティに係る物理的環境の一層の強化に取り組むことは勿論のこととして、今後も出来るだけ組織的環境・体制の整備にも力を入れて取り組むことが問われている。

(4) 情報システム部門（情報システム担当者）の組織体制に係る課題

このことについては平成 27 年度から繰り返し述べてきたが、令和 7 年度末においても解決を見ない。これは情報システムに係る業務を継続させるにあたっての人員不足という観点からばかりではなく、情報セキュリティの観点からも改善を要する。組織の継続性の担保および危機管理の観点から情報システム技術要員（一般職員では代替できない）の充実喫緊の組織的課題であると思料する。

IV. 財務の概要

1. 資金収支計算書

(単位：千円 未満切捨て)

収入の部		支出の部	
科 目	決算額	科 目	決算額
学生生徒等納付金収入	1,866,471	人件費支出	1,733,361
手数料収入	25,642	教育研究経費支出	1,190,218
寄付金収入	121,181	管理経費	273,623
補助金収入	1,060,085	借入金等利息支出	6,624
資産売却収入	506	借入金等返済支出	175,800
付随事業・収益事業収入	169,261	施設関係支出	242,681
受取利息・配当金収入	3,706	設備関係支出	48,134
雑収入	152,365		
借入金等収入	0		
前受金収入	71,916	資産運用支出	20,000
その他の収入	916,281	その他の支出	1,033,644
資金収入調整勘定	△238,763	資金支出調整勘定	△381,446
前年度繰越支払資金	1,455,141	翌年度繰越支払資金	1,261,153
収入の部 合 計	5,603,795	支出の部 合 計	5,603,795

※各表とも金額については、千円単位で切捨てたものであり、合計額と必ずしも一致しない場合がある。

1) 資金収入

主要な資金収入科目は、学生生徒等納付金であり、その金額は約18億6,647万円（学費の納入対象の在籍人数は、大学・短大・高校・幼稚園等法人合計で2,207名、2026年3月1日現在）となっている。収入に見合った支出で運営するという基本姿勢と、入学・入園者数の確保等、補助金獲得の強化を図ることとしている。

2) 資金支出

主要な資金支出科目は、人件費である。

資金支出には、教育研究活動およびその他活動に対する支出が人件費に次ぎ、その他、借入金返済支出、施設設備関係支出、特定預金への積立などの資産運用支出を含んでいる。

教育研究経費支出には、各学校の教育研究に必要な消耗品費、教材費、研究費、光熱水費、クラブ活動補助費、支払手数料等がその主な内容であり、約11億9,021万円であった。

また、管理経費支出は、学生募集費、広告関連費用、法人を含む事務部門の運営に必要な諸経費等のほか、スクールバス、学生寮等に係る費用が含まれている。

2. 事業活動収支計算書

(単位：千円 未満切捨て)

科 目	決算額
教育活動収入計	3,292,412
学生生徒等納付金	1,866,471
手数料	25,642
寄付金	114,072
経常費等補助金	1,009,856
付随事業収入	123,535
雑収入	152,834
教育活動支出計	3,552,703
人件費	1,782,173
教育研究経費	1,461,102
管理経費	306,951
徴収不能額等	2,476
教育活動収支差額	△260,291
教育活動外収入計	49,432
教育活動外支出計	39,612
教育活動外収支差額	9,820
経常収支差額	△250,470
特別収入計	71,714
特別支出計	73,495
特別収支差額	△1,780
基本金組入前当年度収支差額	△252,250
基本金繰入額合計	△419,017
当年度収支差額	△671,268
前年度繰越収支差額	△8,894,819
基本金 取崩額	15,764
翌年度繰越収支差額	△9,550,323
(参考)	
事業活動収入計	3,413,560
事業活動支出計	3,665,811

①教育活動収支

学生生徒等納付金、人件費、教育研究経費等、本業の教育活動における経常的な収支を表している。

②教育活動外収支

教育活動収支に計上されない受取利息・配当金や借入金等利息のような財務的な活動でかつ経常的なものを教育活動外収支に表している。

③経常収支差額

前項①と②の合計が経常収支差額である。

④特別収支

施設設備補助金や資産処分差額などの一時的に発生した臨時的な収支のことである。

⑤基本金組入前当年度収支差額

全体の収入額と全体の支出額との差額のことである。

※千円単位で切捨てたものであり、合計額と必ずしも一致しない場合がある。

⑥基本金 ・ 基本金取崩

基本金とは、(イ) 学校の設立時およびその後の規模拡大あるいは質の充実向上のために取得した固定資産の調達に要した金銭（1号基本金）、および取得予定の固定資産の調達に要する金銭（2号基本金）の総額、並びに(ロ) 学校の継続性を担保するために基金として保持する金銭等の資産（3号基本金）、さらに(ハ) 文部科学大臣が定める恒常的に保持すべき資金（4号基本金）、の合計である。

基本金取崩とは、上記（イ）の固定資産を除却・減損処理した際に当該組入額を基本金から減額することである。

3. 貸借対照表

【資産の部】

(単位：千円 未満切捨て)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	7,260,691	7,240,059	20,632
流動資産	1,442,564	1,536,425	△93,860
資産の部合計	8,703,256	8,776,484	△73,228

【負債の部】

(単位：千円 未満切捨て)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	1,035,010	1,185,503	△150,492
流動負債	742,774	413,258	329,515
負債の部合計	1,777,784	1,598,761	179,022

【純資産の部】

(単位：千円 未満切捨て)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	16,475,795	16,072,542	403,253
第1号 基本金	15,649,795	15,266,542	383,253
第2号 基本金	80,000	60,000	20,000
第3号 基本金	500,000	500,000	0
第4号 基本金	246,000	246,000	0
繰越収支差額	△9,550,323	△8,894,819	△655,504
純資産の部合計	6,925,471	7,177,722	△252,250
負債及び純資産の部合計	8,703,256	8,776,484	△73,228

※各表とも金額については、千円単位で切捨てたものであり、表中の増減、合計額と必ずしも一致しない場合がある。

固定資産は、有形固定資産が土地約11億3,994万円、建物約43億6,234万円、構築物1億7,748万円、備品・図書等8億8,747万円、特定資産5億8千万円、車輛2,895万円、その他8,448万円、合計約72億6,069万円。流動資産は、総額約14億4,256万円のうち約12億6,115万円が現金預金となっている。

固定負債は約10億3,501万円で、その内訳は、八学幼稚園園舎建設、光星高校舎リニューアル、全施設のLED化、美保野キャンパス整備に係る借入金のほか、退職給与引当金および割賦購入未払金等となっている。流動負債は約7億4,277万円で、うち短期借入金1億7,570万円は返済期限が1年以内の長期負債を振り替えたもの。前受金7,191万円は2026年度入学生の入学金や授業料等の2025年度入金分の内2026年度に教育活動収入等へ振り替えるもの。賞与引当金7,581万円は2026年夏季賞与概算額で私学法改正に伴う会計基準の変更により当年度から計上されたもの。他に未払金3億9,706万円、預り金2,227万円である。

4. 財務指標の推移

【事業活動収支関係 財務比率】

(小数点2位以下切捨て)

区分	2023年度	2024年度	2025年度
人件費比率	49.7%	49.9%	53.3%
教育研究経費比率	41.5%	39.8%	43.7%
管理経費比率	8.4%	10.5%	9.1%
借入金等利息比率	0.1%	0.1%	0.2%
学生生徒等納付金比率	58.2%	59.2%	55.8%
補助金比率	26.6%	28.9%	31.0%

(注) 上記の指標は、2016年度以降、経常収入(教育活動収入計+教育活動外収入)を分母として算出している。たとえば、人件費比率は人件費÷(教育活動収入計+教育活動外収入)となる。